

---

とよなか

Vol.29

令和元年度

---

研究紀要

---

大阪府立豊中支援学校

---

## はじめに

本校教育活動の総括として、研究紀要「とよなか vol. 29」を発行いたします。研究授業や実践交流会、各教科研究会、10年目の教員の実践報告等、今年度の本校の教育実践をまとめました。日々の教育活動の根幹を成すものは、児童生徒のニーズに応じた授業であることは言うまでもありませんが、児童生徒の「できること」を着実に増やしていくためには、授業改善における不断の努力が必要となります。毎日の授業づくりにおける振り返りと積み上げを確実に実行していくためにもそれぞれの実践を明確にして共有していくことが大切であり、その集積が学校全体の教育力を向上する原動力になります。

今年度より3年間、大阪府教育庁の学校経営推進費事業で「豊中 安全安心 HOT ホット PROJECT」に取り組んでいます。初年度の今年度は、災害時での活用を想定した“ミラリスピーカー”“マッスルスーツ”“大型発電機”の購入とそれらを日ごろから使い慣れるという観点で、授業や学校行事での活用を中心に展開しています。いざという時に備えることはもちろん大切なことではありますが、日々の活動から当たり前に関材等を活用できることがこれからの防災教育に必要なことであると考えています。2年目以降で更に本校における防災意識が高まり、地域との連携、他校への発信を進めていきたいと思っております。

まだまだ改善すべき点も多々ある本紀要ですが、少しでも他校の参考となれば幸いです。何卒ご高覧いただき、忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。

最後になりましたが、関係機関の皆さまには日ごろより温かなご支援、ご理解を賜り、心より感謝しております。これからも引き続き、ご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

令和2年3月

大阪府立豊中支援学校長 平井 晋也

# 目次

はじめに

## I 教科等研究会からの実践報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・P3

社会、理科、保健体育、図工・美術、職業、英語、自立活動、課題、自閉症研究、  
家庭、国語、算数・数学、音楽

## II 各学年の実践報告

<小学部> 『小学部5年生への保健指導の取り組みを通して』・・・・・・・・・・P23

<中学部> 『じぶんたちでやってみよう～宿泊学習に関連した生徒の主体的な学びを  
促す取り組み』・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P30

<高等部> 『ICT を利用した学習活動と学習履歴の活用について』・・・・・・・・・・ P35

『成功体験を増やす授業づくり』

『社会科におけるキャリア教育の取り組み～外部連携・授業を通して～』

『「気づき」「行動」する！清掃教育』

## III 教職員の授業研究（学習指導案）

<小学部> 生活科・算数科グループ：学習指導案・・・・・・・・・・・・・・・・・・P44

<中学部> 職業科（職業）：学習指導案・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P53

<高等部> 家庭科：学習指導案・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P63

## IV 学校経営推進費実践報告

豊中安全安心 HOT ホッと PROJECT 実践報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・P74

あとがき

教科研 社会科 ～各学部の実践報告・教材紹介～

小学部：中村美子 中学部：杉山巴菜 檜原雅貴 高等部：森本晃介

1 小学部の取り組み 「小学部低学年合同生活について」

特別支援学校学習指導要領の小学部生活科の目標は、児童が生活に必要な基本的な知識や技能および態度を、生活経験を積み重ねて着実に身に付けていくことが基本にある。「具体的な活動や体験を通して、生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することを目指す。」と書かれている。「具体的な活動や体験を通して」とは、日々の生活において、見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなどを対象に直接働きかける学習活動である。

小学部教育課程の生活のねらいの中に、「集団生活への参加に必要な態度や技能を養う。」「自分と身近な社会や自然との関わりについて関心を深める。」というねらいがある。生活の内容に集団活動があり、「集団活動に参加し、集団の一員として活動をする。」というねらいがあり、いろいろな遊びや共同での作業と役割分担を行うことなどがあげられている。

小学部 1・2年生の生活の授業は各学年で行っているが、1ヶ月に1回、合同での学習（合同生活）を行っている。「他の学年の友だちを知り、一緒に活動することを楽しむ。」をねらいにしている。今年度4月からの前期は、始まりの歌、あいさつ（始まりと終わり）、自己紹介、テレビ絵本「とりかえっこ」、ダンス「ラップ de とよなか」、ふれあいあそび「なかよしタッチ」などを行った。ふれあいあそびでは、1年生と2年生がペアになって手をつないだり、手合わせをしたりして交流を深めた。自分から積極的にペアの友だちにはたらきかける児童もいた。

10月からの後期は、あいさつ（始まりと終わり）、テレビ絵本「さつまのおいも」「ピヨピヨメリークリスマス」、手あそび「こんにちは」、ふれあいあそび「よろしくね」「おいものてんぷら」などを行った。ふれあいあそびでは、前期の活動の動きに加えて、ペアで手をつなぎながらまわったり、ケンケンをしたりする動きも取り入れた。横になって身体をくすぐりあう活動も行い、回を重ねるごとにくすぐったくて声を出す児童が増えていった。

学年を超えて年間を通して活動を繰り返し行うことで、見通しをもつことができるようになった。学年やクラスを超えた友だちとの関わりが増えるとキャリア教育の観点である協調する力（人間関係・社会調整力）、ルール理解・遵守力（人間関係・社会関係調整力）をつけることができるといえる。今後も継続して児童の実態に合った内容を考えて取り組んでいきたい。

# I 教科等研究会からの報告

## 2 中学部の取り組み

### (1)「中学部1年生理科社会 都道府県学習の取り組み」

#### ①1学期の取り組み

都道府県学習の基本的な事項について学習を行った。パワーポイントを活用し、都道府県の名称や数などをクイズを交えつつ何度も繰り返し学習した(図1)。また、色付きの都道府県パズルを利用し、生徒が都道府県に興味を持てるようにした。

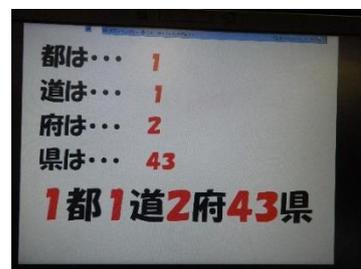


図1 パワーポイント

#### ②2学期の取り組み

1学期で習得した基本事項を基に、大阪府を含む近畿地方について学習を行った。パワーポイントを用いて近畿地方の都道府県の場所、特産品や名所を、クイズを挟みつつ学習した。また、授業内で何度か場所を問うプリント課題を設定し、定着を図った(図3)。

2学期はカルタ教材を利用し、より多くの都道府県の名前をゲーム感覚で覚えられるようにした(図2)。はじめはカルタに参加しない生徒もいたが、札読みという役割を任せることで全員がゲームに参加することができた。



図2 都道府

県カルタ

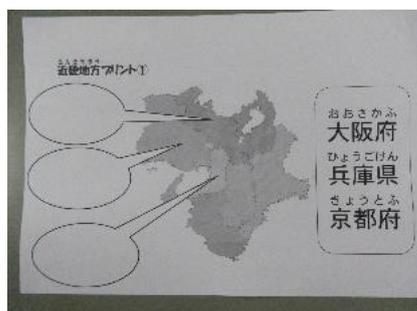


図3 近畿地方プリント

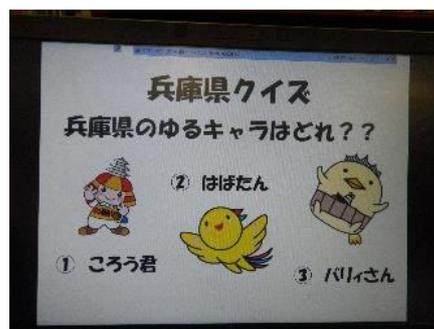


図4 パワーポイント

#### ③3学期の取り組み

近畿地方から広がり、日本にある都道府県の調べ学習をタブレット端末を使用し行った(図4)。「みかんが、たくさん採れる都道府県」など生徒に興味のあるテーマを選んでもらい、そのテーマにまつわる都道府県を調べ、「〇〇県新聞」としてまとめ、発表した。

(2)「中学部3年生理科社会 プログラミング教材の取り組み」

プログラミング教材を使ったプログラミング的思考を育む指導



○使用した教材

コード・A・ピラー

制御部分の頭部にはコントローラーや電源、スピーカーが内蔵されている。胴体がプログラミングのサブルーチンとなっていて、次々と接続していくことでイモムシの動作を指示することができる。使い方は非常にわかりやすくなっており、誰でも簡単に使うことができる。また、イモムシの動きに併せて、音楽が流れたり光ったりするので、遊び感覚でプログラミング的思考を育むことができる。



○ねらい

- ・プログラミングに興味や関心を持つ。
- ・問題の解決には必要な手順があることに気付く。
- ・友だちと協力して問題を解決する。



○指導方法

まずは、実物や写真などを用いて、コード・A・ピラーの使い方を説明する。その後、生徒をいくつかの班に分け、コード・A・ピラーを使ったさまざまなゲームに取り組む中で、プログラミング的思考を育てていく。その際、班員全員に計画係や組立係、出発係などといった役割を提示し、友だちと協力して問題を解決する経験を積めるよう工夫する。

【いもむしお散歩ゲーム】

いもむしが通るコースを用意する。スタート位置は固定せず、自分たちで考えてスタート位置を決めるよう伝える。決められたコースを逸れずに通り、ゴールに置いてあるりんごを獲得することができたら成功。慣れてきたらコースに障害物を置き、難易度を上げていく。

【いもむしカーリングゲーム】

得点が書かれた模造紙を用意する。スタート位置は固定して、どのようにいもむしが進めば高得点を獲得できるか考える。いもむしを動かして、いもむしが止まったところに書いてある得点を獲得することができる。それを何回か繰り返して、合計得点が一番多いチームが優勝。

【いもむしりんご集めゲーム】

りんごの絵が描かれたカードを何種類か用意する。スタート位置は固定せず、どのコースを通ればたくさんのりんごを集められるか考える。いもむしを動かして、いもむしが通過したりんごを獲得できる。それを何回か繰り返して、一番りんごを集めたチームが優勝。

## I 教科等研究会からの報告

### 3 高等部の取り組み

#### 『「はたらく」をテーマにした学年の社会科学習の取り組み』

特別支援学校学習指導要領において、高等部の社会の目標に「地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化及び外国の様子について、様々な資料や具体的な活動を通して理解するとともに、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする」とある。

高等部の第1学年 A、B グループの『国社』では、「我が国の国土地理的環境」と「地域や我が国の歴史や伝統」に重点をおき、実践を行った。また、生徒たちの社会参加が円滑に進むように、「コミュニケーション」をテーマとした実践も行った。これらの取り組みについて紹介する。

#### (1) Aグループの『国社』での取り組み

Aグループの『国社』では、我が国の国土について、8つの地域（九州、中国、四国、近畿、中部、関東、東北、北海道）にわけ、各地域についての学習に取り組んだ。

「生徒間のやりとりを活発に行い、生徒間の学びを深める」ということを目標に置き、毎回の授業で生徒間のやりとりができるような工夫をしている。今回の実践は、各地域の最初の授業での実践である。

2人組のペアを作り、ペアで「その地域で、お互いに自分が知っていることを発表しよう」というテーマで活動した。その後、全員がペアの人の意見も踏まえ、知っていることを発表した。人前で、発表することが苦手な生徒が多くいたが、「大きな声で発表する」ということをルールとすることにした。生徒は、必死に自分の意見を伝えようと努力した。これにより、生徒の既存の知識を確認することができた上に、生徒間のやりとりを活発にすることができた。各地域の特徴のわかる動画を視聴し、ワークシートを使って各地域についてまとめる作業を行った。授業を重ねるごとに、生徒たちの各地域への理解が深まり、学習意欲を高めることもできた。

#### (2) Aグループの「コミュニケーション力向上」の取り組み

高等部入学時のAグループの課題として、「他人と話すことが苦手」、「人前で発表することが苦手」というものがあった。一方で、「新しい友達を増やしたい」、「コミュニケーション能力を高めたい」と考える生徒が多くいた。そこで、簡単なじゃんけんゲームやグループでの意見交流や、自分の考えをまとめ、それを発表するというところを行った。当初は、「緊張する」や「うまく話せるか不安」といった意見が生徒から聞かれた。しかし、これらを継続することで、明るく生徒間で会話ができたり、大きな声で発表ができるようになった。これらの力が向上する中で、

## I 教科等研究会からの報告

『国社』の授業にも活気が出てきた。

### (3) Bグループの『国社』での取り組み

Bグループの『国社』では、我が国の国土について、近畿を中心に学習に取り組んだ。このグループでも、「生徒間のやりとりを活発に行い、生徒間の学びを深める」ということを目標に置き、生徒間のやりとりができるように実践している。

「近畿で自分が知っていることを発表しよう」というテーマで活動した。生徒たちが住んでいる近畿地方を中心に学習を進めた。ここでも、2人組のペアを作り、ペアで「その地域で、お互いに自分が知っていることを発表しよう」というテーマで活動した。このグループは、他者と話をすることが得意な生徒が多く、活発なやり取りが行われた。一方で、人前で話すことが苦手な生徒も多く、「大きな声で発表する」ということ、「最後まで発表を聞き、ねぎらいの拍手をすること」をルールにした。生徒は、必死に自分の意見を伝えようと努力した。これにより、生徒間のやりとりを活発にすることができた。また、お互いの意見を聞くことで学習意欲の向上にもつながった。各地域の特徴のわかる動画を視聴し、動画を見て気づいたことなどの発表も行った。授業を重ねるごとに、生徒たちの近畿地方への理解が深まった。

### (4) Bグループの「コミュニケーション力向上」の取り組み

Bグループは、前述の通り、明るく活発にコミュニケーションを取ろうとする生徒が多い。課題としては、特定の知識に固まり、視野が広がりにくいということがある。「異国文化を学び、生徒の視野を広げてほしい」、「外国の方と接することで、他者とふれあうことの喜びを知ってほしい」と考えた。そして、本校の『T-NET』の取り組みの一環で、海外出身の方に来ていただくことにした。

インド出身の方に来ていただき、英語を使って、自己紹介や好きなことなどを、聞き合った。また、日本の歌を紹介したり、インドの歌に合わせてダンスをしたりした。最初は緊張気味だった生徒も、頑張って英語を話そうとしたり、自分の事を必死に伝えようとした。明るい雰囲気、時間が過ぎていった。生徒の感想から「英語を話すことができて嬉しい」、「外国の事を知ることができて嬉しい」などが挙がった。生徒は、異文化理解の大切さを学ぶことができた様子であった。

### (5) まとめ

年間を通して、知識の理解にこだわらず、「コミュニケーション」を意識した活動を繰り返す行うことで、「発表をする力」や「友達と話す力」が大きく向上した。今後は、「人間関係・社会調整力」の向上もめざし、「あいさつ」や「敬語」などにとどまらず、ビジネス・マナーの取得をめざした実践も考えていきたい。また、社会の仕組み（経済、政治、福祉など）を中心に、生徒が社会で自立して生きていく際に、必要な技能・知識の取得もめざしていきたい。

4. 社会科の教材紹介

<p style="text-align: center;"><b>パズル&amp;ゲーム</b></p> <p style="text-align: center;"><b>日本地図（3層式）</b></p> <p>パズル&amp;ゲームを通して、都道府県の名前と位置を学習することができる。パズルの土台には各地方の名産のイラストが載っており、視覚的にもイメージしやすい。都道府県学習の導入において、ゲーム感覚で取り組むことで、都道府県に興味を持つきっかけになる。</p>	
<p style="text-align: center;"><b>くもんの生活図鑑カード</b></p> <p>「生活道具カード」「お店カード」「くだものやさいカード」など種類は多岐にわたる。表面がイラスト、裏面が名称と説明文で構成されている。カードを見ながら説明文を読む、説明文を聞いて該当するイラストのカードを探すなど、活動展開の幅は広く、多様なグループで活用することができる。</p>	
<p style="text-align: center;"><b>都道府県カルタ</b></p> <p>取り札に都道府県の形状、読み札に都道府県の説明文が書かれている。カルタを通して、都道府県の名称と特徴を学習することができる。パズルと同様、都道府県学習の導入で取り入れることが多い。</p>	

# I 教科等研究会からの報告

## 教科研 理科 実践報告

高等部：大井信忠 才田恵美 小学部：丸幸由美

### 1 テーマ

本校の教育環境を利用した新しい取り組み。

### 2 テーマ設定の理由

今年度は理科教科研への参加者も少なく、学部をこえた交流もなかなか難しそうであったので、高等部のシラバスにはない新しい取り組みを探ることによって、学部をこえた理科的な授業の参考やヒントになるようなものを見つけることを目標に取り組んだ。

### 3 取り組み方

学部をこえて参考としてもらうために、取り組む内容については、本校周辺の環境をフィールドとしたり、教材室にあるもの（薬品や機材）を活用したりと、授業に取り入れやすいものになるよう心がけた。

### 4 教科研の内容

#### ① 水田の微生物の観察（6月11日）

本校には北千里高等学校から譲り受けた顕微鏡が10台ある。かねがねこの利用を考えていたが、観察にはプレパラートを作る必要があり、利用しにくい原因となっていた。そこで水中の微生物を観察することでプレパラートを作らず、顕微鏡の使い方を学びながらミクロの世界を体験できる手順を探ってみた。まず、学校の近くの水田（稲6丁目）で水の表面に浮かんでいる緑色の泡を採集する。水田の中に立ち入ることはできないので、樹脂製のピーカーに長い柄を取り付けたものを使用した。これをポリビンに入れて持ち帰り、スライドガラスにスポイトで一滴垂らしカバーガラスをかけて顕微鏡で観察する。今回は活発に動くミドリムシやイカダモを画面いっぱいには観察することができた。顕微鏡の使い方とともに、高等部2年生の1学期に学習する生物の分類と合わせて学習すると効果があると考えられる。採集の時期は水田に水が入った直後、6月初旬の日光が水面を照らしている時間帯が良い。

\*神戸の自然シリーズ（神戸市教育委員会）を参考にさせていただいた。

その他、ケミカルガーデンや小学部の児童が教室で飼育できるものとしてプールでヤゴの採集を、また近くの水田でカエルの卵の採集を試みた。

### 5 まとめ

本校にある教材を有効に活用できるよう、今後も新しい取り組みを探っていきたい。

## 教科研 保健体育科 実践報告（各学部での特徴ある活動について）

小学部：中村智美 中学部：石木陽大 高等部：和田享子

### 1 小学部

小学部では、低学年（1～3年）と高学年（4～6年）に分かれて全体体育の授業を行っているが、それぞれにおいて「リトミック」を行っている。平成28年度より高学年の内容は、低学年のリトミックの内容を発展させた動きを加えた「リトミック2」とし、種目数も増やし（低学年9種類、高学年12種類）、実施時間も増やした（低学年約5分、高学年約10分）。また、さまざまな動きが入っているため「体づくり運動」や「走・跳の運動」「表現運動」などの運動領域が入った活動となっている。今回は、高学年のリトミックの動きのポイントを紹介する。

1. 歩く（手を振り足を上げてあるく。） 2. とんぼ（跳ぶ。＋手を広げて走る。＋静止の繰り返し。） 3. 後ろ歩き（後ろ向きに歩く。足は擦らないほうが安全。） 4. どんぐり（横転。手を伸ばして頭の上で合わせ、一方の膝は軽く曲げて傾けて回る。） 5. お馬の親子（前半：四つ這い。足の親指を立てて床につける。後半：高這い。お尻を上げて膝をできるだけ伸ばして進む。） 6. かえる（手を床に付けて膝を曲げた姿勢から跳びあがる。） 7. めだか（胸の前で手を合わせて伸ばし、肩の高さを維持する。＋手を左右に小さく揺らしながら走る。） 8. ロボット（つま先を浮かせてかかとをつける。＋腕をL字にして歩く。） 9. こま（両手を広げる。＋回る。＋最後は静止。） 10. かかし（両手を広げ片足立ちの静止。＋ケンケンで進む。） 11. ギャロップ（両手を広げて維持。＋進行方向は横向きで、進む際に足と足をぶつけるように進む。） 12. クモ（お尻を浮かせ、足と両手で体を支える＋移動する。）となっている。

児童らは6年間を通してリトミックを継続することでその動きも身につけやすい。また、低学年時のリトミックの模倣から、高学年の複雑な普段経験しない動きや姿勢を経験することができる。継続することで音楽を聴いて自ら次の動きを行う児童も多い。ポイントを意識して身体を動かすことでさらに運動強度も上がり、体力向上につながると思われる。このように全学年で行っているリトミックを通して、今後も児童らの体の動きや体力を向上できるよう引き続き取り組んでいきたい。

### 2 中学部

中学部では各学年を発達段階別に4グループ（太陽グループ、星グループ、山グループ、海グループ）の縦割りにして授業を行っている。

縦割りで体育を行う点での1つ目のメリットは、同じ位の技量を持った生徒同士で活動することができることである。学年ごとに体育をする場合は、どうしても発達段階に差が出るため、生徒によっては難しすぎたり、簡単すぎたりと、偏りが出てしまうことがある。一方で発達段階別の授業となると、その偏りが起きにくいいため、それぞれの生徒に合った授業内容を展開することができる。

## I 教科等研究会からの報告

2つ目のメリットとしては1～3年生がいるため、上級生が下級生に教えたり、教えられたりとする中で、協力する力をつけることができるという点である。やはり1年生はできないことが多いが、それを2,3年生が教えながら生徒同士で問題を解決する力や、一緒に問題を乗り越える力を身に付けることができる。

### 3 高等部

高等部では、毎年2回（4月・2月）の「高等部スポーツ大会」を実施している。どちらも学年対抗で対戦して、優勝を目指し、本気の試合が展開される。4月は「歓迎スポーツ大会」として、“新入生と在校生がスポーツを通して交流する”という目的で実施している。2月は「送別スポーツ大会」として、1年間の練習の成果も含めて対戦し、持久走の表彰などもおこなっている。この大会を目指して、それぞれの時期に練習に取り組んでいる。毎年、生徒の実情に合わせて種目なども検討している。今年から、「歓迎スポーツ大会」は、午前中のみの実施とし、種目もゲーム性を重視したものとしている。

高等部の体育の授業とも大きく関わる、特徴的な取り組みとなっている。

[参考資料]

「歓迎スポーツ大会」平成31年4月18日（木）実施 9:40～12:00

オセロゲーム（作業・学習コース①、A・Bグループ中心）

野球盤ゲーム（生活コース・Dグループ中心）

大玉ベースランニング（学習コース②③・Cグループ中心）

ボール運びリレー（学習コース②③・Cグループ中心）

綱引き（エキシビジョンあり）（作業・学習コース①、A・Bグループ中心）

「送別スポーツ大会」令和2年2月14日（木）実施 9:40～14:30

PK合戦（学習コース②③・Cグループ中心）

タグラグビー（作業コース・Aグループ中心）

ボール取りゲーム（学習コース①②、B・Cグループ中心）

ピン倒し（学習③・生活コース・C2・Dグループ中心）

サーキットレース（生活コース・Dグループ中心）

持久走1500m（選抜上位10名）

トライゲーム（作業・学習コース①、A・Bグループ中心）

8人制サッカー（各学年より選抜10人）

### 4 科内研修について

毎年、科内研修を行い教員の授業力向上を図っている。各教員の専門種目の研修を実施したり、“ニュースポーツ”の研修を行っている。今年、「キンボール」の研修を行った。

## 教科研 図工・美術科 実践報告夏季研修

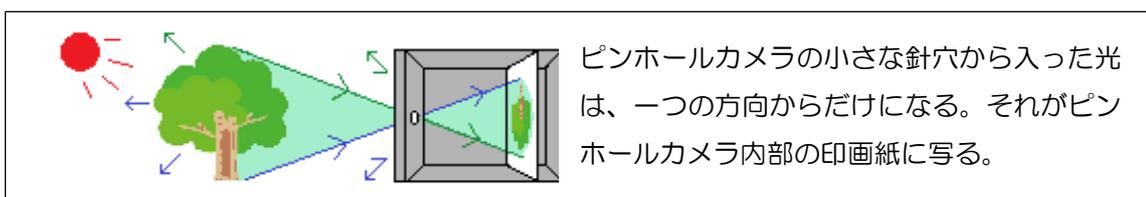
中学部：牧瀬奉行（講師） 山本敏隆（講師）

### 1 概要

図工美術科教科研では、毎年、校内の教職員を対象に夏季研修を実施している。今年度は「ピンホールカメラ研修会」と題し、手作りのカメラ教材を通じて、古くて新しい表現方法の発見や、作品と向き合う事の大切さを目的に研修を行った。

### 2 内容

- ピンホールカメラの説明……ピンホールカメラの原理やその構造、使用する道具や現像液等の取り扱いや注意点、撮影の方法など多岐にわたる説明を丁寧に行った。
- カメラの制作……本体には、小箱を使用。レンズにあたる部分の制作に入る。箱に開けられた針穴部の内側に真鍮板を貼付し、遮光のため外側から黒テープで覆う。その後、部屋をセーフライトのみが点いた暗室状態にし、カメラ内部に印画紙を固定。テープで完全密封。
- 撮影……学校内で撮影する場所やモチーフは各自が決定。撮影におけるポイントは、遮光のため外側から覆った針穴部の黒テープ（シャッター）を開ける露出時間である。



- 現像……部屋を再度セーフライトだけをつけた暗室状態にし、ピンホールカメラを開ける。印画紙を慎重に取り外し、現像液の入ったバットにつけ、割り箸でムラなくひたす。絵がうき上がり、その後、停止液、定着液の順につけ、最後に水につけ、ハンガーにかけ乾燥（ネガ）。
- ネガポジ反転作業……現像できた“ネガ”（白黒が反対になっている状態）を“ポジ”に反転。暗室でプリント用の新しい印画紙と現像したネガを合わせ、アクリル板にのせる。ライトで数秒照らし、ネガを焼き付ける。その後、現像液、停止液、定着液の順につけ、乾燥させたら完成。



### 3 まとめ

レンズのカメラでは撮れない「光の柔らかさ」や「ゆったりと流れる時間」が、ピンホールカメラで撮った「ピンホール写真」では表現できる。研修を通して、そのノスタルジックな表現を活かしながら被写体に真摯に向き合う姿は、図らずも自分自身を素直に見つめる行為となり、立ち止まる事で、普段では気づけなかった感性に触れる良い研修となった。

## 教科研 職業科 実践報告

高等部：石田 陶也

### 1 各学部職業科の指導目標

#### (1) 高等部

農作業における基本的な技術、知識を身につけるとともに、集団活動に必要な協調性、マナーを身につけること、自主的な実践力、さらに、社会人として必要とされる継続する力・適応する力を養うことを目標としている。

#### (2) 中学部

多様な分野の作業および職業体験を通して働くことに興味を持つこと、友だちと協力して安全に作業に取り組むこと、準備や後片付けなども含めて最後までやりきることの3点を主な柱として、生徒の発達課題に合わせて目標を設定している。

#### (3) 小学部

小学部では「職業科」としての教科の設定はない。

### 2 各学部の農作業を取り入れた教育活動

小学部では、主に「生活」の活動で栽培に取り組んでいる。サツマイモの栽培に取り組んだり、プランターでプチトマトなど野菜を育てている学年もある。苗や種の植え付けと収穫が主な活動であるが、当番を決めて児童が水遣りを行っている学年もある。

中学部では、主に職業科で野菜の栽培に取り組んでいる。植え付け（種まき）と収穫の間は、他の分野の学習を行いながら、適宜除草や灌水を授業で行っている。収穫物は、調理実習（家庭科など他教科の授業も含む）に利用する、あるいは生徒が家庭に持ち帰るなどしている。

高等部では、1年生は「職業」、2、3年生は「園芸」「園芸クラフト」などで畑やプランターなど土作りから継続的に栽培に取り組んでいる。収穫物は給食に提供し、全校生徒に味わってもらっている。各イベントでは成果物の販売も行い、家庭科で加工、調理なども行っている。

### 3 農作業を通じて学ぶこと

#### (1) 身近な食物の生産過程を学ぶ。

植え付け（種まき）から収穫までを見通す。食物（野菜）ができるまで、様々な労働が必要なことを知ることができる。あるいは、それ以前の土づくりから経験することで、さらに苦勞の奥深さを知り、収穫の喜びにつなげることができる。

#### (2) 収穫物を活かす ～大きな達成感～

野菜を収穫して調理、自分でつくったものを食べる喜び。普段野菜が苦手な子も積極的に食べる。家庭に持ち帰り喜ばれることで、自己肯定感を養う。自分の仕事が役に立ったことを実感できる。

## 教科研 英語科 実践報告

中学部：高良祥也、東恵子、黒木正治 高等部：下田健太郎

### 1 中学部の活動

今年度より外国語の授業が始まった。各学年の取り組みについて紹介する。

#### 第1学年

外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむことを目標に取り組んでいる。外国語の歌を歌い発音練習やリズムに親しんでいる。ゲームを通して基本的なフレーズの表現を学んでいる。今後は特有の表現がよく使われている場面の会話練習に取り組んでいく予定である。



#### 第2学年

英語だけに限らず、世界の言葉で「こんにちは」をどういうのか、西洋のイベントなど文化的な事柄についても学ぶなど、多角的に授業に取り組んでいる。英語についても基本的な表現や単語など、アクティビティーを通じて楽しく、また記憶に残りやすくしながら学べるように工夫をしている。

#### 第3学年

毎時間、フォニックスのチャンツを歌い、アルファベット読みと音読みがあることを知った上で、身近な英単語を学習している。また、多読で使用される Oxford Reading Tree の Level1 から 2 程度の洋書を読む活動にも取り組み、欧米の文化や生の英語に触れている。慣れてきたところで、自ら好きな洋書を選び、グループで読み聞かせる活動に発展させていく。

### 2 高等部の活動

今年度もとよなか国際交流協会から講師を招いて各学年 2 回ずつ、計 6 回の国際交流活動をおこなった。今回は中国出身の方が、英語での挨拶や中国の文化の紹介を行った。さまざまなゲームを通して、一緒に身体を動かすこともできた。

説明の際は、写真を豊富に取り入れることで、多くの生徒が、中国の国旗や食文化などの内容興味を持って話を聞いていた。また、中国と日本の共通点である漢字に関するものも取り上げた。似ている漢字でも中国と日本では意味が異なることがあることを学んだ。クイズ形式で生徒たちも楽しみながら文化の違いを学習することができた。



## 教科研 自立活動 実践報告

小学部：恒川仁美、森純人、小西厚 中学部：山田絵里奈 高等部：西原岳児

自立活動研究会では、年間を通してメンバーより自立活動の実践発表や教材紹介を行っている。意見交換をすることで、実態把握に大切な視点や自立活動における課題の内容確認を行った。各自が気軽に実践を紹介し合い、子どもの課題背景や障がい理解を深めながら、子どもに関わる楽しさを再確認する場となった。

また夏休みには動作法の公開研修を行い、校内はもちろん校外からも多数の参加があった。実態把握の方法や関わり方を自身が体験しながら学ぶことができる貴重な研修となった。

### 1 実践発表

「衝動性の強い子どもの優先課題について」 事例検討より

子どもが登校後に朝の支度をする様子のビデオを観た後、子どもの様子、現在の課題設定やクラスでの工夫の紹介があった。今後の課題として、「教員の支援を少しずつ減らす」「誰が担当しても、同じ支援方法をする」等の意見があがり、課題についての教員間での情報共有の大切さを認識した。

### 2 動作法夏季公開研修

#### (1) 日程、参加者

7月26日(金)『動作法リラクゼーション講座①』

29日(月)『動作法リラクゼーション講座②』

30日(火)『動作法 タテ系講座～「直」の姿勢作り』

31日(水)『動作法 コミュニケーション講座』

～手合わせ、交互引き合い、腕上げ動作コントロールを中心に～

本校の小西首席が講師を務め、外部からも連日10名前後の参加があり、4日間で延べ94名の参加があった。

#### (2) アンケートより

- ・自分の体をコントロールすることが、思ったより難しいと分かった。相手に対して力が入りすぎていたが、自分では気がついていなかったなので、意識していきたいと思った。
- ・自分も力が入りすぎていることに気づいた。力を抜く実感ができ、力が抜けるとすごく体が軽くなった。
- ・スキンシップの必要性はわかっていたが、関わり方が分からなかったなので、勉強になった。

まずは教員自身が、自分に力が入っていることを知り、力を抜く体験を通して、リラックスする大切さを実感する感想が多くあった。研修を通して子どもの実態把握の必要性や、子どもとやりとりを重ねるなかで、子ども自身が「やろう」と思える主動感の大切さについて学ぶことができる研修だった。

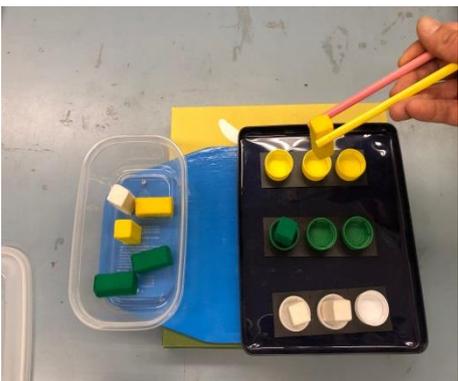


### 教科研 課題 実践報告

小学部：角谷佳則 川口守 山川千雅子 井手崇人 中学部：上原有貴 近藤忠昭

課題教科研究会では、児童生徒の実態に応じた教材教具作りを行っている。作成方法や教材教具の活用方法、使用した際の児童生徒の様子振り返りなど、全体で情報の共有も行っている。共通の教材教具に対しての情報共有を行うことで、新しい活用方法に気付くことができ、1つの教材教具の活用方法にレパートリーを持たせることができた。また、全学部の学習内容を参考にすることで、より良い教材作りができています。

夏休みには、2日間の校内・校外の教員向けの教材作成の研修を行っている。この研修のテーマは、「身近な物を使った教材作り」で、“ペットボトルのキャップ”、“アイスのスティック”、“針金ハンガー”など、リサイクル品で教材作りを行っている。研修で実際に教材教具を作られた方は、対象の児童生徒の実態に合わせて、細かな工夫をして作っている。この研修を担当している教員の豊富な知識、多彩なアイデアで、毎年異なる教材教具を作ることができて、非常に好評である。以下に、“ペットボトルのキャップ”を使用して作った教材の作成方法や工夫点を紹介する。

	<p>『色のマッチングと手指の巧緻性を高める』</p> <p>全学部の児童を対象に作成した。個別の課題学習で使用している。写真では、四角だが円柱のものもある。木にフェルトを巻いてボンド付けしてある。(黄緑白橙赤青の6色) キャップの器は、123と用意し最大6まで並べられる。工夫次第で数を増やしたり減らしたりすることができる。箸・ピンセット・手指を使いつまむ練習ができる。児童・生徒の実態に応じて難易度を変えられることが魅力的である。</p>
	<p>『ペットボトルキャップの積み重ね』</p> <p>全学部の児童・生徒を対象に作成した。個別の課題学習で使用している。ペットボトルの飲み口部分を切り取る。キャップの内側にあるプラスチックの丸板を外し、切り口をヤスリで整えて外した丸板をはめ込む。同様に飲み口の先にも丸板をはめ込む。飲み口の先に色シールを貼り、キャップと色あわせをする。写真カードを見ながら写真カードと同じように積み重ねる課題設定もできる。</p>

## 教科研 自閉症研究会 実践報告

小学部：川崎朋子

今年度の自閉症研究会は、1学期にDVDや本で自閉症に関する理解を深め、2学期に事例研究を行った。1学期の活動内容については昨年度の研究紀要で詳しく触れているため、今年度は事例研究について報告する。事例研究では、自閉症研究会の教員が自分の学級の児童の活動の様子をタブレット端末やビデオカメラで事前に撮影し、研究会で映像を流しながら意見交換をした。9月、10月、11月に行った事例研究は次の通りである。

### 1 小学部3年生 給食

3年生の児童7名に対して教員2名で指導している事例である。給食をすぐに食べ早く外に遊びに行きたい児童や、食べられるものがほとんど無い児童、スプーンの持ち方等繰り返し指導する必要がある児童等、様々な児童がいる。意見交換では、基本の体制である教員3名を確保できるように学部で話し合ったら良いのではないかという意見や、食べるのが早すぎる児童にはタイムタイマーを用いておかわりの量を調節したら良いのではないかという意見が出た。

### 2 小学部2年生 朝の会

2年生5名の児童に教員2名で指導している事例である。離席の多い児童、窓の外が気になる児童、その日の調子によって朝の会への参加の難しい児童等がいる。意見交換では、掲示物を減らしたり、カーテンを閉めたりして視覚的に集中できる環境を作ったら良いのではないかという意見や、退屈して離席してしまう児童にはカードを貼る等の仕事を用意し、当番でない時にも役割を作ってあげたら良いのではないかという意見が出た。

### 3 小学部6年生 朝の会

6年生5名の児童に教員2名で指導している事例である。児童の実態に合わせて歌を歌うのをやめたり筋肉トレーニングの時間を設けたりして、前回の2年生の朝の会とは大きく異なった内容である。意見交換では、児童の実態に合わせて朝の会の内容を変えていくことに肯定的な意見が集まり、あと半年で中学部であることから中学部での取り組みを意識した内容に変えていくと良いのではないかという意見も出た。

事例研究を通して、発表者にとっては活動の改善への新たな視点が得られ、他の参加者にとっても自分のクラスでの活動を振り返る良い機会となった。今後も、事例研究の場以外でも、児童の様子や悩みを共有することで、児童へのよりよい関わり方をみんなで考えていきたい。

## 教科研 家庭科 実践報告

高等部：里見 綾

### 1 テーマ

「工業用ミシンの使い方」研修

### 2 テーマ設定の理由

本校の被服室に工業用ミシン（工業用一本針本縫い自動糸切ミシン JUKI DDL-8700-N）が2台ある。平成23年10月に夕陽丘高等職業技術専門学校から譲渡されたものである。譲り受けた理由としては、さをり織りなどの厚地用の生地を成形するためである。また、職業科でも、皮製品の縫製用として譲り受けた（職業科のミシンの保管場所は、木金工室前の廊下から被服室へ移動した）。しかしながら、工業用ミシンを使用したくても操作方法が分からず、工業用ミシンの使用頻度が少ない現状であった。そのため家庭科教科研では、工業用ミシンを使いこなすことを目的に、校内の教員を対象に夏季研修として工業用ミシンの使い方の研修を実施した。

### 3 研修内容

- (1) 家庭用ミシンと工業用ミシンの相違（資料1）
- (2) 工業用ミシンの使い方・・・下糸の巻き方、上糸・下糸のかけ方、本縫い、自動糸切り、アタッチメントの紹介など
- (3) 小物製作・・・特殊加工した布製品による縫製（ビニール素材でポーチ作り）
- (4) その他・・・ロックミシンの使い方

### 4 まとめ

研修には中・高の教員5名（家庭科4名、体育科1名）が参加した。初めて工業用ミシンに触れる教員でも説明を受けると、すいすいと工業用ミシンを使いこなし、型紙をアレンジして小物製作に取り組みポーチを完成させることができた。直線縫いが高速で縫える馬力があり、縫い目がきれいということと、厚地や薄地、皮製品などの特殊素材も縫えるということと、今後も使用してみたいという教員がおり、研修の成果があったと考えられる。今後の課題として、さらに工業用ミシンを扱える教員を増やすということと、教員だけでなく生徒も使えるように安全面を考慮した工業用ミシンの授業導入の検討があげられる。



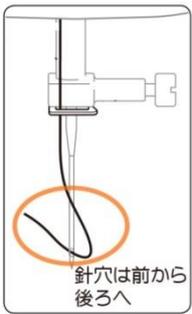
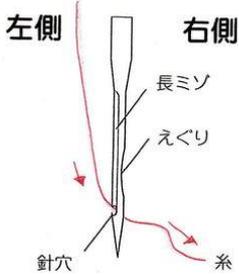
(資料1)

## 【工業用ミシン研修】

令和元年7月30日(火)

10:00~12:00 被服室

### 家庭用ミシンと工業用ミシンの相違

	家庭用ミシン	工業用ミシン
		
針の形状	HA×1 (半円形) 	DB×1 (円形) 
上糸・・・針穴に通す方向	前 → 後ろ	左 → 右
下糸・・・ボビンの入れ方	左巻き	右巻き
回転数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・500~900針/分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1500針/分</li> <li>高速回転仕様(高速で一気に縫うことで、糸しまりがよく縫い目がきれい)</li> </ul>
長所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直線縫い、シグザグ縫い、ボタンホールなど多機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縫い目安定、量産向き</li> <li>・多種多様な生地(厚地薄地)に対応</li> <li>・耐久性ある</li> <li>・広い作業スペースがある</li> </ul>
短所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・厚地を縫うと寿命が短くなる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直線縫いのみ</li> </ul>
貫通力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デニム生地8枚重ね</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デニム生地12枚重ね</li> </ul>

## 教科研 国語科 実践報告

小学部：森岡恵

### 1 はじめに

今年度は、1年・2年・中学年・高学年の別に、それぞれの児童を発達段階別のグループに分け、国語科の授業を行なった。本稿では、中学年グループの内、学習指導要領の第2段階にあたるグループに焦点を当て、平仮名の書字学習に関する授業実践を報告する。

### 2 筆記具について

学習指導要領には、「書くことに親しみ、正しい筆記具の持ち方を身に付ける」とある。授業では鉛筆を使うことが多かったが、芯の濃度や軸の形状など様々なタイプがある中で、濃いめの三角タイプを採用した。これは、握りやすさや書きやすさに加え、書いた線が濃く現れることで、書くことに対する達成感が生まれ、やる気に結びつくと考えたからである。

筆記具の持ち方については、初めは鉛筆に市販の補助具を付けて練習していたが、感触が気になって集中できない、補助具の使い方を理解すること自体が難しく使いこなせない、といった様子が見られた。結果的に、幾つか試した中で最も有効であったのは、鉛筆の軸の指先が当たる部分に輪ゴムを巻き付け、指を置く位置の目印とした簡易なものであった。指先に気にならない程度の若干の刺激があることで、目視なしで指の定位置を確認できるようになり、手軽に鉛筆を握ることができるようになった。操作の簡易さ以上の利点があったと感じる。

### 3 書字学習の実際

学習指導要領には、「書くこと」第2段階の学習内容として、「自分の名前や物の名前が文字で表わすことができることを知り、簡単な平仮名をなぞったり書いたりする」と示されている。しかしながら実際には、手指の巧緻性、注視・追視の力、集中力といった学習のレディネスに関係のある部分に課題があるために、スムーズに書字に取り組めないことも多い。そこで、書字の前に必ず手作業（プットイン、ピース通し、シール貼り等）とプリントでの運筆練習を取り入れることで、レディネスを高め、無理なく書字に取り組めるようにした。

初めに練習する文字としては、児童の興味関心を最優先し、字形の難易度に関わらず児童自身の名前を取り上げた。また、「凹文字を指でなぞる→平面の文字を指でなぞる→平面の文字を鉛筆でなぞる→教員と一緒に手本を見て書く→一人で手本を見て書く」といった順で、ステップアップできるようにした。加えて、はらう箇所で「シュッ」、はねる箇所で「ピョン」といったように、オノマトペで文字の形状を表現することで、筆運びのイメージ化を図った。指先の感覚や音から受けるイメージが、学習定着の一助となったのではないかと考える。

1年間の実践を通し、児童の実態に合った教材教具を準備することの重要性を再確認することとなった。今後も引き続き、個々に応じた授業のあり方を追求していきたいと思う。

## 教科研 算数・数学科 実践報告

小学部：廣瀬裕美 中学部：篠原愛 高等部：大西弘朗

### 1 小学部

グループの授業では時計の学習に取り組んだ。みんなが大好きなぬるちゃん人形を使用し、「ぬるちゃんの1日」と題して朝起きてから夜寝るまでの活動と時刻を勉強した。自分の課題人形も出てくるため、毎回期待しながら取り組むことができた。またその際に、学校で購入した時計の教材を使用した。実際の時計と同様に、長い針を回すと時間が進んでいき、その時刻が下にデジタル表記でも表示されるため子どもたちも楽しみながらわかりやすく活動することができた。

### 2 中学部

中3の2グループでは、昨年度に引き続きお金の学習に取り組んだ。お金の数え方や価値の大小を分かりやすく伝えるために、視聴覚教材を積極的に取り入れるようにした。また、より実生活でもより応用できるよう、電卓を使って自分が買いたい商品の合計金額を計算し、代金を支払う活動を取り入れた。始めは何を買ったらいいのかわからなかったり、金額が大きくなるにつれて自信を持てず支払いができなかったりする生徒が見られたが、経験を積むと意欲的に活動できる生徒が増えた。買い物をする大切さや楽しさを知り、学んだことを活かして生活できるような活動内容になるよう心がけている。

### 3 高等部

サイコロゲーム（引き算）

準備物…サイコロ2個（大と小）、カード

準備…生徒1人につき10枚のカードを持たせておく。（WBに磁石等で貼るとわかりやすい）

- (1) 生徒二人がそれぞれサイコロを転がす。
- (2) サイコロの目の差の計算を、大サイコロを転がした方が行う。
- (3) 目の大きい方に小さい方から差分のカードを渡す。同じ目が出た場合その目分のカードを両者から引きもう一度サイコロを振る。
- (4) 小サイコロを持っている生徒が大サイコロに持ち替え、小サイコロを別の生徒に渡す。  
(わかりやすくかつ平等に大サイコロを転がしてもらうための配慮でありどちらを投げてもルール上問題はない)
- (5) 1～4を繰り返す。
- (6) カードがなくなった生徒はサイコロを1回転がし、その時一番多くカードを持っている生徒からその目の分のカードを引く（引かれたカードは回収する）。
- (7) 残った生徒が大サイコロを持ち、小サイコロを誰か指名する。
- (8) さらにカードがなくなった生徒が出た場合、前になくなった生徒もサイコロを振り、一番カードが多い生徒から引く。☆最後まで残っていた生徒の勝利。

※ 「8」は脱落した生徒が多くなるとすぐなくなってしまっているので、その場のカードの残り枚数を見て行なうかどうか調整する。

教科研 音楽科 実践報告

小学部：藤川智子 中学部：片山賀子、山田絵里奈、木村仁美、古田雅明、工藤延恵、大松和史  
 高等部：福峯真智子

・各学部の取り組み

学 部	活動内容
小学部	<p>木琴の取り組みを紹介する。木琴演奏にはマレットが必要だが、マレットを保持することが難しい児童もいる。教員と一緒に持って演奏することもあるが、より「自分でできた！」という思いを持てるよう、マレットを工夫した。(写真上) マレットにタオルを巻きつけてビニールテープで覆い、ゴムで取っ手を付けた。取っ手の内側に手を入れると手にマレットが付いている状態になり、握り続けなくても演奏できる。また、音板に階名や絵を貼って目印にするのだが、その付け外しが大変なため、ラミネートに目印を貼って帯にした物を用意した。ラミネート帯を作る手間はかかるが、毎回の付け外しの手間が少ない、音板を汚さないという点で非常に便利だった。</p>  
中学部	<p>1年 歌唱課題の教材紹介をする。声を出すことが難しい生徒が指でなぞりながら旋律を聞いたり、音の変化を視覚的に分かり音の高さの変化をつけて歌えることをねらいにしている。毛糸を使い指先の感覚でも興味を持てるように工夫した。</p>  <p>2年 「海の声」のメロディを鍵盤楽器で演奏した。メロディを2小節で細かく分け少しずつ練習を行い、弾くことができたならスタンプ帳にスタンプを押すことで達成感を持ちやすくした。また指番号を鍵盤に添付することで弾く場所をわかり易くした。</p> <p>3年 和太鼓『龍神太鼓』。3 台の和太鼓を用いて、独奏やフォーメーションを組んで展開していく演奏を練習した。音を合わせる事、複数人で囲んでたたく時の工夫などを考えさせた。話し合いと協力、1 年次から取り組んできた成果を発揮できた。</p>
高等部	<p>1年 合唱の取り組みを紹介する。1グループ4名程度で3グループ作り、各グループで集まって歌う練習を行った。姿勢や声の出し方を互いに確認し、良いところ、直したほうがよい箇所などの意見や感想を出し合った。自分たちで考え、話し合うことにより、主体的に取り組むことができた。</p> <p>2年 学習発表会に向けて全グループ共通で「優しいあの子」の合唱に取り組んだ。間奏では2種類のリズムパターンを取り入れ、2チームに分かれて手拍子でリズムを刻み、舞台では歌や手拍子によって学年全体での繋がりを感ずることができた。</p> <p>3年 カードを用いて短いリズムパターンを作り器楽活動を行った。自分や友達が考えたリズムが演奏に活かされることで、興味を持ち意欲的に取り組むことができた。</p>

令和元年度 実践交流会 小学部分科会  
『小学部5年生への保健指導の取り組みを通して』

●発表者：下村 直子

1 保健指導の必要性について

- (1) 児童相互、児童と教員間での児童から身体接触が多く、その中にはプライベートゾーンの領域内に入って触ることがあり、相手は嫌がっているのだが、それに気付かずに行動がエスカレートするなどがみられる。その際、教員からの言葉かけや、友だちからの『やめて』との言葉に反応してその時は手を止めるが、数分後にはまた繰り返している。高学年という段階では不適切な行動である。
- (2) 一部の家庭ではあるが、親子関係により起因していると考えられる事案、保護者が参観等で校内において我が子を見かけると抱きしめたり、顔を近づけたり、膝にのせて会話したりするなど、思春期に入り身体や気持ちに変化してきている我が子に気付いていない保護者が多いように感じる。
- (3) この学年は現段階で保健学習の中で習得していなければならないスキルを、十分に身につけていないことが多くあるのに気付いた。それらのスキルの中から厳選して実践している。学習内容は多岐に渡るが、日々の生活の中で取り組みながらひとつひとつの指導を繰り返し行い、指導していくことが必要である。

2 5年生の児童の実態について

- ・今年度、地域の小学校等から5名が転入し、計15名となる。
- ・言語理解は実年齢に近い児童から、1歳半ぐらいまでと幅が広い。
- ・肥満度40以上の児童から、マイナス25の児童もいる。
- ・落ち着きがなく、集中力が短い。
- ・肩が触れたり少しぶつかっただけで、イライラしたり、怒ったりする。
- ・突然不安定になり、声を出したり、離席したり、泣き出す。
- ・手順書やイラストなど、視覚的支援が入りやすい。
- ・ゲームや歌が好き。
- ・気持ちが安定しているときは、友だちのことを気にかけたり、心配したりするなど優しい面も持っている。
- ・友だちが頑張っているときは『がんばれ!』や、上手にできたときは『すごいね!』など言葉をかけることができてきている。

3 指導方法について

- ・指導の内容に合わせ、それぞれの場面や内容に合わせたイラストを提示した。
- ・ロールプレイを行い、場面の途中で進行を止め、今提示している行動が○か×かをクイズ形式にして考えるようにした。

## I 教科等研究会からの報告

- 特にプライベートゾーンに関する回では、以前教員の研修で学習した【境界線音頭】を取り入れ、歌の好きな児童たちには楽しみながら距離感を気付かせる取り組みを行った。その後は、自他の距離の近い児童には「境界線、どうだった？」と言葉かけを行って個別指導を行っている。
- プライベートゾーンに関する指導の際は、特に配慮の必要な児童の位置を正面にすることで、注目できる環境を整えた。
- 毎回同じ授業者が行うのではなく、養護教諭に依頼し、授業の一部分を担当してもらうことで、授業にメリハリをつけた。
- 授業で提示した手洗い、歯磨き、距離感などのイラストや指示書を教室に掲示することで常に意識できるようにした。
- 特にプライベートゾーンに関する授業は毎回復習をするという形で繰り返し行うことで定着を図った。
- その日に勉強したことをその日の内に家庭で話題となるよう、毎回、授業内容と授業で使用したイラストや問題を学年だよりの特別号として保護者に配付した。
- 2回に1度、アンケート用紙を配付し、児童の家庭での様子や、保護者の感想、質問等を自由に書いていただいた。

### 4 これまでの児童、保護者の変化について。

- 初回は事前に各家庭から出生時の身長を教えてもらった。そして出生時、小学1年生4月、5年生4月の3回の身長を紙テープで色分けして模造紙に貼り、授業で教材として使用した。児童たちは自分がこんなに小さかったのかと感じていた。その日に各家庭に持ち帰らせると、ある保護者から「自分たち（両親）の身長も測って貼りました。」と家庭での様子を教えてもらえた。
- 第2回の男女の身体の変化の回で、女子は胸が大きくなっていくことや生理のこと、男子は声が変わることや生殖器の説明をした。授業終了後、一部の児童が「おちんちん」[おっぱい]という言葉を使い続けている。上記の言葉を言うことで周囲の反応を楽しんでいる様子がみられる。
- 第3回は手洗いチェッカーを塗布し、いつものように手洗いをした。ブラックライトに手をかざしたところ、洗い残しがある箇所がはっきりと分かり、今後の手洗いの参考になった。
- 【境界線音頭】では音楽の好きな児童が多いので興味を示し、歌で距離感を覚えるきっかけとなった。また相手側に腕を伸ばすことで嫌な時に「やめて！」と言える機会が増えた。
- プライベートゾーンの学習を始めてから不適切な身体接触をする児童が少し減った。
- 「身体が当たったときなど、何も反応しなかった我が子が、人に触れてしまったと意識でき、すみません、ごめんなさいと言えるようになった」との保護者からの感想があった。

I 教科等研究会からの報告

○保護者アンケートでは、「自分（保護者）が境界線を意識せず、我が子とスキンシップをしていた」ことや、保護者自身は「そろそろ距離を取りたいと思っているが、くっついてくる我が子にどう伝えたらいいのか」など悩んでいるという感想もあった。

5) 指導実践の経緯について。

☆プライベートゾーンに関する内容は 10 月 18 日以降、毎回復習という形で実施。

☆手洗い、歯磨き、身体洗いに関する授業はそれぞれの授業後から、2 コマ続きの授業時、復習という形で交互で実施。

☆下記の表にはその回の授業で主として指導したメインテーマと内容を記す。

回数	日程	限目	内容
1	9月 17日 (火)	5～6 限目	自分を大切にする勉強 第1回 テーマ 男女の違いを理解し、自分の成長を確認する。 ・男の子？女の子？ ・大きくなったね（身長）
2	24日 (火)	2限目 養護教諭	自分を大切にする勉強 第2回 テーマ 成長している自分に何が起こるのか？起きているのか？ ・男女の身体の変化（毛、生理、精通）
3	10月 4日 (金)	2・3 限目	自分を大切にする勉強 第3回 テーマ 手洗いの大切さ① ・どうして手を洗うの？ ・手洗いチェッカーとブラックライトを使って
4	18日 (金)	2～3 限目	自分を大切にする勉強 第4回 テーマ 大人の階段を登り始めた今、気をつけることはどんなこと？① ・プライベートゾーンについて
5	25日 (金)	2限目	自分を大切にする勉強 第5回 テーマ 大人の階段を登り始めた今、気をつけることはどんなこと？② ・“境界線” について
6	11月 1日 (金)	3限目	自分を大切にする勉強 第6回 テーマ 大人の階段を登り始めた今、気をつけることはどんなこと？③ ・ロールプレイから学ぶ「これは○？×？」

I 教科等研究会からの報告

7	12日 (火)	5～6 限目	自分を大切に する勉強 第7回 テーマ 大人の階段を 登り始めた今、気を つけることはどんな こと?④ ・ロールプレイから 学ぶ「これは○?×? ?」
8	26日 (火)	5限目 養護教諭 6限目	自分を大切に する勉強 第8回 テーマ 歯磨きの大切 さ① ・どうして歯を磨く の? ・歯磨き練習
9	12月 10日 (火)	5～6 限目	自分を大切に する勉強 第9回 テーマ うんこについ て ・どんなうんこがあ るの? ・うんこは元気のバ ロメーター
10	1月 14日 (火)	2～3 限目	自分を大切に する勉強 第11回 テーマ 大人の階段を 登り始めた今、気を つけることはどんな こと?⑤ ・ロールプレイから 学ぶ「これは○?×? ?」 ・自分たちもやっ てみよう「こんなと きはどうする?」
11	31日 (金)	2～3 限目	自分を大切に する勉強 第10回 テーマ 身体洗いの大 切さ① ・どうして身体を洗 うの? ・身体を洗わなかつ たらどうなるの?
12	2月 14日 (金)	2限目	自分を大切に する勉強 第12回 テーマ 身体洗いの大 切さ② ・歌に合わせて身 体洗いの練習
13	25日 (火)	2限目	自分を大切に する勉強 第13回 テーマ マナーにつ て ・イラストからマ ナーを学ぶ ・ロールプレイから 学ぶ「これは○?×? ?」
14	3月 10日 (火)	2～3 限目	自分を大切に する勉強 第14回 テーマ 病気になる ないためには ・病気になるよう にするためには? ・病気になったら どうする? ・この勉強を通し て(まとめ)

6 実践における気付きや課題について。

- ◎第2回の授業【男女の身体の変化】の際、授業前に身体の各部位の説明をするにあたり、正式名や他の言葉への言い換えも検討したが、児童に分かりやすい言葉の【おちんちん】【おっぱい】という言葉が一番判りやすいだろうと判断して使用した。しかし授業後から一部の児童でその言葉を友だちに授業の目的外の意味で繰り返し言う行動が続いている。上記の言葉を使う児童には、その都度、学校で言って良い言葉ではないことを伝え、同時に周囲の児童には過度に反応をしないよう、学年として指導している。成長期の児童にはこの内容はとても大切であるが、その反面、この言葉の便宜を間違っ使われやすいので、言い方や伝え方などさらに検討が必要である。
- ◎授業を進める中で、授業内容の理解が難しい児童に対し、学年全体の一斉指導を行う厳しさを感じていた。その時、首席から「発達段階に応じたグループ分けをして指導してはどうか」という助言を受け、学年で協議し、実践することとした。第8回の授業では歯磨きの実践の際、2グループに分かれて行った。染め出し液を使用し磨き残しをチェックする児童のグループと、歯ブラシを歯に当てる練習をする児童や、自分で歯ブラシを10回動かす練習をする児童のグループに分け、児童ひとりひとりの発達段階に合わせた指導を行った。教員もひとりひとりの様子を詳しく確認できる機会となり、その後の歯磨き指導に役立てることができている。
- ◎最初の【1）保健指導の必要性について】にも記載したが、今年度5年生は2～3学期を通してこの保健指導を行うこととなった。しかしこれは理解面と内容面を考慮すると長期に渡り指導する必要がある。従って豊中支援学校の小学部として、どの学年でどの内容に取り組むべきかなど、年間指導計画を立案することで、シラバスを作成し、それに基づき実践していくことが次年度に向けた課題である。

令和元年度 実践交流会 小学部分科会  
『小学部 5 年生への保健指導の取り組みを通して』

●助言者：大阪府立刀根山支援学校 船木雄太郎先生

●発表者：本校教諭 下村直子

●聞き取り：研究研修部

○発表全体の印象

・まず、これだけの教材を用意したのがすごい。私も泉北高等支援で保健指導を始めたのだが先ほど下村先生が教材に困ったとおっしゃったのと同じことを思った。市販の教材はあるが目の前の子どもには合わないことがある。それで教材を作った。教材作りは大変だが、一度作るとストックしておいて使える。個人のものでなく学校の財産にしてほしい。

私の教材は泉北高等支援の HP にアップしているが、それを他校でその学校の子どもらに合うようにそれぞれ変化している。

○指導助言 1

・下村先生の実践の中にひとつ入れてほしいのは「気持ち」だ。「気持ち」をもっと入れてほしい。たとえば歯磨きをしたときに「気持ちいいね。」「すっきりするね。」と教員が横で言う。手洗いしたら今の季節なら水が冷たい。そうしたら「冷たいね。いややね。」もしお湯が出たら「あったかいね。気持ちいいね。」など、気持ちを言語化することを積極的にやってほしい。重度の子どもにも繰り返し伝えれば必ず伝わる。

・身体感覚と気持ちは常に結びついている。大人が身体感覚を認識していないことがある。言葉にできない。教員のメンタルヘルスは子どもに伝わるものだ。家庭でのイライラをもったまま授業をすると子どもに伝わる。大人は自分のメンタルヘルスをしっかり認識してやっていかねばならない。そういう意味ではチームで指導することをやってほしい。チームで相談できること、愚痴を言えることは大事だ。授業の負担を代えてみること、チームで教材を作ってみることなど他の教員を巻き込んでやってほしい。

・歯の磨き方が上手になること、スキルを身に付けさせることよりも、気持ちを伝えることの方が大事である。「気持ちいいね。」と常に教員が横で言うことが大事だ。

・性の問題を抱える子どもたちは「快」の感覚が分からない。つまり「不快」も分からない。気持ちを言葉にして伝えて、育て直していくことが必要である。

・「境界線音頭」の境界線は片腕の距離だ。なぜ片腕かというと、相手が近づいてきて嫌な距離、ストップという距離は大人がやれば片腕の距離、これは絶対だ。それ以上に相手が近づいてくれば嫌な顔をしたり、のけぞってよけたりする。ところが、この「いや」が理解できない子どもがいる。相手が嫌がっているのがわからない。「境界線音頭」には歌って踊った後にコントがあるのだが、笑うことで心に残るようになる。他校で「境界線音頭」が形を変えて進化している例もあり、どんどんやってほしい。

○指導助言②

・性教育や保健指導は誰でもやったらいいと思う。子どもの成長が教員のやりがいだから、下村先生の授業を全部やりたいと思う。先ほど下村先生は保健指導のシラバスや段階の話があったが、この授業を1年生から毎年やればいい。豊中支援学校は小中高と12年間の子どもの成長を見通してできることが素晴らしいのだから、少しずつ内容を変えてでも毎年やればいい。小だけでなく中でも高でもやればいい。小の子どもが高になれば当然課題は変わってくる。卒業後もいろんな課題がある。これは進路部の先生に聞くなどして追跡調査してもいいことだ。

・保護者との連携は難しい。保護者も一生懸命育てて悩んでいる。保護者から「お風呂に一緒に入るのをいつやめたらいいですか？」と聞かれたことがある。保護者は一生懸命育てているのだから、教員が軽々しく「〇〇です」とは言えない。保護者との関係ができてからなら言えるかもしれない。まずは保護者の話をよく聞くことが大切で、家庭の課題をつかんで、そのあとにアドバイスすることが大切である。

**質問** 現在は、性は男・女だけでなく多様な有りようが認められているが、今回の発表では「男」と「女」に限定しているのはなぜか

**答え** (発表者) 児童の発達段階を考慮して、わかりやすさを優先した。男・女だけでなくみんなが使えるトイレがあるよということは伝えている。

(助言者) 体という知識として伝えてはどうか。あなたが男である女であるということではなく、男の体、女の体はこうなっているという知識として伝えればよい。高等部などではちょこちょこいらっしゃるが、(性同一性障害の) 本当の意味での診断には2つの病院の診断が必要であったり、18歳以上であったりという条件がある。ただし、この条件に当てはまらなくても本人が意識しているなら配慮は必要である。

**質問** 境界線を学んだ子が、それ故に満員電車に乗れなかったり、椅子に間を詰めて座ることができなかったりという事例があると聞くと、これらはどのように対応すればよいか。

**答え** 境界線音頭で境界線は片腕の距離になっている。片腕というのがポイントになる。腕はぐぐぐ〜っと縮めることができる(腕を曲げて見せる)。これを伝えないといけない。境界線は変わるものだ。

じぶんたちでやってみよう  
～宿泊学習に関連した生徒の主体的な学びを促す取り組み～

中学部 2 年：小寺隆介・木村仁美・幸尾綾子・志賀有美・加古涼子・古田雅明・吉見太佑・  
伊藤智香・黒木正治・松本優子・佐藤大輝・田辺賢剛・三澤恭子

1 はじめに

昨年度中学部に入学した本学年の生徒は、他の学年よりも集団は小さいものの、一人ひとりの課題は多岐に渡り、入学当初は学年集団としてのまとまりを感じる事が難しかった。しかし、校外にて活動を行う校外学習や総合学習、また運動会や学習発表会といった特別活動においては、ほとんどの生徒が前向きに取り組む姿勢が見られ、行事を重ねるごとにクラス単位での集団のまとまりや、仲間と協力する姿勢、積極的に取り組もうとする姿勢が育ち、1年間を通して集団としての成長を感じる事ができた。

そこで、第2学年においても行事を経験することが成長につながることを期待し、ひとつの大きな行事である宿泊学習を、生徒たちがさらに成長できる行事とするためにはどうしたら良いか、その方法を探りながら子どもたちを指導した実践をここでは報告する。今回は「じぶんたちでやってみよう！」をテーマに、宿泊学習へむけての準備や、班別の活動や係活動において自主的な学びを促すことをねらいとし指導を行った。それと並行して、宿泊学習事後学習においても、子どもたちが主体的に学べるような工夫を行った取り組みについても紹介する。

2 生徒の実態

中学部2年生は、現在36名の生徒が4つのクラスに分かれて在籍している。学習グループは4グループに分かれており、それぞれの生徒の課題に応じた取り組みを行なっている。

今年度の学年目標は「どんなことでも『やってみよう！』」とした。昨年度に引き続き、「やってみよう！」をキーワードに様々なことに積極的に挑戦していける学年作りを進めている。

3 宿泊学習について

(1) 概要

今回の宿泊学習において事前学習では『主体的に取り組む』ということの主目的として、学びを深め、実際の宿泊現場では学校で直面しない出来事に対して主体的に行動することを心掛けるように指導をした。

(2) ねらい

- ・宿泊学習を通して集団活動を意識するとともに、基本的な生活習慣（食事、入浴、清潔など）を身に付ける。
- ・修学旅行に向けて自分の役割を意識して、活動に取り組むことができる。

## I 教科等研究会からの報告

- 様々な場面で、友だちと協力して過ごすことができる。

### (3) 「主体的な取り組み」を目指すための工夫

まず、どの子どもたちも宿泊学習に参加したくなるような企画がいるのではないかとということで、生徒の中から実行委員を（スマスイ係・レク係・バスレク係）を立ち上げ、委員のメンバーを中心に活動内容を決めていった。そして、実行委員だけが活動するだけでなく、生徒全員が何かしらの役割を担えるように係分担をし、（ホテルでの役割分担・スマスイでの活動係など）自分一人では果たせない役でも友人と協力して行うことで役割を果たすことで、達成感や充実感に繋がるように工夫した。

また、事前学習で個人目標を立てることで事後学習で達成できたかどうか確認できるようにし、単に楽しかったということで終わらないようにした。また、事前の準備において泊行事に必要なものを教員や生徒から募り、生徒たちで分担して買出しに行くことで当日の楽しみにもつながるような取り組みも行った。

最後に、水族園で楽しめるように各授業で興味を広げたり、総合学習で入浴マナーを学習した。家庭と協力しながら体の洗い方を学習したり、荷物の管理ができるように学校生活での更衣の時間を活用し、時間内に着替え、片付けるなど事前準備を積み重ねたことで、当日余裕を持って楽しみながら取り組むことができた。

## 4 2年次の取り組み

### (1) 1学期総合学習

#### ① 公共の場（お風呂）でのマナーを学ぶ

#### ② からだ（頭）を洗う

#### ③ 自分の物の管理（脱いだ服の片付け）の3つの課題を設定して、総合学習に取り組んだ。

事前学習では、①パワーポイントを用いてお風呂場、食事どころでのマナーを学んだ。②タオルを使って実際にからだを洗ったり、③自分のきがえた衣服を決められた場所に置いたりする練習をした。

総合学習当日は、お風呂や食事の待ち時間で少し気持ちが落ち着かない生徒もいたが、事前学習で学習した内容を意識して行動することができた。

事後学習では、総合学習でのお風呂や食事、待ち時間などの様子写真を見て振り返りをし、各クラスで協力して、新聞作成に取り組んだ。また、クイズをクラスで考えて出題し、より興味を深められる内容となった。

### (2) 宿泊学習に向けて～授業での取り組み～

#### ① しおりづくり

各学習グループごとに作業を分担し、学年全員でしおり作りに取り組んだ。1・2グループは、国語の授業で文字の記入を担当した。この際、枠の大きさを変え、用紙を拡大して記入させた後、

## I 教科等研究会からの報告

A4 サイズに縮小するなど、生徒の実態に合わせて配慮して取り組んだ。3 グループは美術の時間に魚のイラストを描き、そのイラストを4 グループが作業の時間にしおりに貼り付けた。また、とじる作業も2グループの生徒で行った。

### ② 名札作り

自分たちの荷物に付ける名札と、食事の際に自分の席が分かるように食事札をつくった。作業工程を難易度ごとに幾つかに分け、それぞれの工程を学習グループごとに分担し、全員で名札と食事札を完成させた。

### ③ 買出し

自分たちが使用する物品を自分で直接購入することで、宿泊学習に向けての意識が高まるようにした。物品購入については、難易度に応じて、学習グループごとに分担し、それぞれ別々の店舗へ行き、購入した。

### ④ レクリエーション

1日目の夜と、2日目の午前中にレクリエーションに取り組んだ。事前学習の段階から、レクリエーションの係の生徒を中心に、どのような活動をするかを考え、当日も係の生徒が司会進行をつとめた。他の生徒も、係の生徒に協力的で、楽しい時間となった。

### ⑤ 水族園の班活動

水族園では学習グループごとに活動した。各班の中で、係を決め、役割分担することで、いつもの学習グループに変化を加え、活性化を図った。「自分の考えを主張する」など、責任をもって役割を果たそうとすることで、いつもとは異なる積極性が見られた。マップを手にした生徒は自然と先頭に出ているなど、自覚をもって活動する姿が印象的であった。

事前に実行委員考案のミッションを3つ取り入れたことも活性化に結び付いた。「〇〇を探す」「△△と写真を撮る」などのミッションを遂行しようとするなかで、他の班との交流が生まれ、目的意識が高まり、意欲的に施設内を見学することができた。また、広い施設内であるため、いつもの学習グループで行動することで生徒自身が集団を意識しやすく、行方不明防止にも一役買っていた。

### (3) 当日の様子

宿泊当日は、2日間とも雨という日程だったが、全員が参加し、全行程を無事に終えることができた。事前に準備してきた係仕事もそれぞれが責任をもって行うことができた。

バスレクの係の生徒は、自分たちで考えたクイズを発表し、車中の雰囲気盛り上げることに一役買っていた。食事係は、名札を並べたり、食事のあいさつを行った。入浴係は、忘れ物がないか確認したり、入浴に行く際の言葉かけを行った。ほかの係活動においても、一人で係仕事が

## I 教科等研究会からの報告

難しい生徒は、友人どうし助け合ったり、教員と一緒にこなうことで全員が係仕事に取り組んだ。

また、水族園の班活動では、レク係の考えたミッションを班のメンバーで協力しながらクリアしていく姿も見られた。特に、軽度グループの生徒は自分の仕事にやる気をもって主体的に取り組むことができたと感じている。重度の生徒にとって主体的に係仕事などに取り組むというのは、難しいことが多かったが、日常と違う場所で友人たちと過ごし活動したことは、よい経験になったと考えている。

### (4) 事後学習

事後学習の1回目では、宿泊学習での写真を見て振り返りをした後に生徒それぞれが立てた個人目標が達成出来たか、その成果を発表した。生徒たちの目標では、食事の面や分担した役割を全うするなどの生活習慣に係る目標を立てた生徒が数多くいた。その内容は、「自分の布団は自分でたたむ」、「好き嫌いせずご飯を食べる」などの目標があった。無事に全員が目標を達成することができた。

事後学習の2回目では、各クラスで宿泊新聞を作成した。グループの作業内容としては1、2Gは言葉を考え書き込む作業を中心に行い、3、4Gはシールや写真を模造紙に貼り、またマジックでのなぞり書きなどを行った。各クラスごとにこの新聞を用い、発表を行った。

### (5) 学習発表会

学習発表会の内容は、宿泊学習をテーマとした。宿泊学習に向けて取り組んできた歌や授業で水族園の生き物について学んだことなど宿泊学習での成果を盛り込んだ。また、2学期に宿泊学習と学習発表会という大きな行事が続くため、生徒が無理なく取り組めるよう学習発表会のために、新たに取り組むのではなく、宿泊学習で歌った歌や水族園でのダンスなどを学習発表会でも取り組むことで生徒もイメージしやすく、継続性のある指導を行なうことができた。

## 5 終わりに

今回、宿泊学習における取り組みの目標を、主体的に行動することに重きを置いたものにし、事前授業や準備においても生徒自身が自ら動き、周りの人と協力することを促す授業作りを行った。その結果、各授業や、班別の活動、実行委員会の話し合いをする中で、生徒たちは教員に言われて行動するのではなく、自分たちで考えて行動しようとする姿が多くみられ、どの生徒もいずれかの係り活動に参加できるように取り組んだこと、一人ひとり個人目標を立てたことにより、具体的な目標に向かって行動をとる姿などから、成長を感じた。また、事後学習の新聞作りでは「こうしたらどう？」などの声が生徒から聞こえてくるなど、積極的な姿勢が見受けられ、今回の取り組みに一定の手ごたえがあったと考えている。今後も、ただ単に行事をこなすのではなく、行事を柱として取り組みをし、意欲を高めながら活動することで「できた自信」をのばし、さらに次の意欲につなげていくことを続け、生徒たち個々の力を伸ばしていきたい。

令和元年度 実践交流会 中学部分科会

『 じぶんたちでやってみよう  
～宿泊学習に関連した生徒の主体的な学びを促す取り組み～ 』

●助言者：立命館大学 青山芳文先生

●発表者：本校教諭 木村仁美・三澤恭子他

●聞き取り：研究研修部

○発表について

目的を『新しい仲間と一緒に「やってみよう」、どんなことでも「やってみよう』』としていることが素晴らしい。期待感を持った取り組みができていた。生徒の「宿泊に行きたい」「早く行きたい」という気持ちを高めることではじめて主体的な活動になり、その主体的な活動の中でこそ生きて使える力を獲得することができる。この実践は、生きて使える力を高める実践だと思う。

○指導助言

次に、中学部各グループの授業を参観させていただいて感じたことを「視覚支援」と「わかって動ける活動」、「活動量」の視点でコメントする。

見通しをもたせるため行程表やスケジュール表の掲示は有効で必要だが、これだけでは生徒の力にはならない。分かって動ける活動が大切であり、活動時間の多さが学びの豊かさや確かさと比例するといってもよい。

1グループの生徒はほとんどの時間で自ら活動していた。2グループの生徒は先生と一緒に準備をする時間を含め活動している時間が多かった。一方、3・4グループの生徒は待っている時間が多く、もったいない。確かに3・4グループの生徒の発達段階は高くないが、だからこそ座って「見る、聞く、待つ」時間を最小限にして、動く活動を可能な限り多くすることが大切である。もちろん、「見る・聞く・待つ」活動も「期待する」ことを高めていっている限りにおいて意味はある。

比較的発達段階の低い一部のグループでは、生徒の横に先生が張り付いて、生徒が何をするのかが分かっていないのに動かされていた。これは、一見手厚い支援に見えるが、「見る力」「聞く力」を奪い、生徒に力をつけることができない。そればかりか、生徒にストレスがかかり、かえって逸脱行動を誘発する。

視覚支援の方法では、3・4グループは細かい行程よりも「これで始まって、これで終わる」という提示がよい。スケジュールを見るよりも、実際に動いて体験することではじめて見通しを持つことができる。1・2グループは視覚からの明確な情報によって見通しを持った上で体験することにより理解が深まる。

「視覚支援」、「わかって動ける活動」と「活動量」、「活動内容の意味」については、藤原義弘先生の著書や名古屋恒彦先生の著書にわかりやすく書かれているので読んでいただきたい。

紹介文献：名古屋恒彦著「わかる！できる！各教科等を合わせた指導 どの子ども本気になれる特別支援教育の授業づくり」（教育出版）

令和元年度 実践交流会 高等部分科会

『ICT を利用した学習活動と学習履歴の活用について』

●発表者： 西原 岳児

- 1) はじめに
  - ・わたしについて
  - ・この1年で気づいたこと
- 2) 学校をとりまく「ICT」について
  - (例1) 国の方向性
    - (1) 「新時代の学びを支える先端技術活用推進方策（最終まとめ）」文部科学省  
「多様な子供たちを『誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学び』の実現」
    - (2) DX（デジタルトランスフォーメーション）総務省・経済産業省  
「ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」
    - (3) Society5.0 内閣府  
サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）
  - (例2) 卒業の進路  
作業コースの事業所実習内容（今年度）  
障がい者求人一覧（ハローワーク）
  - (例3) アナログとデジタル  
アナログとデジタルのよいところ、よくないところ
- 3) ICT 活用実践例について
  - (例1) 自身の授業  
学習管理システム(moodle)を使った学習活動履歴の管理  
クイズ&アンケート作成サイト(Kahoot!)を使った、学習活動や授業アンケートの実施
  - (例2) 教科横断  
学習発表会用カラオケ風動画  
学習発表会 本番環境用の音源制作  
抽象画のデジタル化とその活用
- 4) これから
  - ・「主体的・対話的で深い学び」「カリキュラムマネジメント」とICT環境の整備
- 5) 助言いただきたいこと
  - ・実技の授業における目標設定について
  - ・ICTの活用方法について

令和元年度 実践交流会 高等部分科会  
『ICT を利用した学習活動と学習履歴の活用について』

●助言者：関西福祉科学大学 加藤美朗先生

●発表者：本校教諭 西原岳児

●聞き取り：研究研修部

○発表全体の印象と今後に向けて

発表者は、「新時代の学びを支える先端技術活用推進方策(最終まとめ)」(文部科学省, 2019) など、教育に関連する直近の ICT に関する動向を十分にふまえ、授業のコンテンツ作成や授業おける ICT 機器や効果的なアプリの活用など、先進的な取組を行われている。

たとえば学習管理システム(moodle)を使った学習活動履歴の管理などは今後、生徒が自身の学習のポートフォリオを作成することによって、学習の見通しや振り返りを行ったり、教員にとってもそれらを個々の生徒ごとに可視化できることを可能にしていけるのではないかと感じた。クイズ&アンケート作成サイト(Kahoot!)を使った学習活動や授業アンケートの実施をうまく組み合わせることで、「主体的、対話的、深い学び」を促していくことにつながる可能性が示されたと考える。

また、自身の授業だけではなく、学習発表会用のカラオケ風動画や環境音源の作成、あるいは抽象画のデジタル画など、教科横断的な取組についても今後のさらなる広がりが期待できる発表であった。

令和元年度 実践交流会 高等部分科会  
『成功体験を増やす授業づくり』

●発表者：河田 茉優

1) はじめに

- ・目指す授業づくりについて  
「できた！」→「次はこうしたい」「もっとチャレンジしたい！」という好循環を作りたい  
成功体験から、意欲を高め、次のステップへ繋がられる授業
- ・生徒の実態

2) 法規について

- ・学習指導要領について
- ・障害者による芸術文化活動の推進に関する法律の施行について（通知）平成 30 年 6 月 13 日文化庁（法規の概要、総則、基本的施策など）

3) 授業で取り組んだ内容について

- ・音楽の授業での実践例  
（合唱、合奏など）
- ・生徒の変化  
（4月からどのような変化があったか）
- ・チームティーチングを大切にする

4) ICT教育の重要性について

- ・カラオケ風歌詞映像の実践紹介  
（作成：情報科教科研 西原教諭）
- ・ダンスDVDの紹介  
（教員有志による夏休みのダンス研修、学年でのダンス教材づくり）
- ・鑑賞などでのICT活用例

5) これから取り組みたいこと

- ・教員としてのスキルを高めていく
- ・目指す教員像

6) ご助言いただきたいこと

- ・全体のご講評
- ・生徒の自己肯定感を高めるために必要なこと
- ・ICT活用例など

令和元年度 実践交流会 高等部分科会  
『成功体験を増やす授業づくり』

●助言者：関西福祉科学大学 加藤美朗先生

●発表者：本校教諭 河田茉優

●聞き取り：研究研修部

○発表全体の印象と今後に向けて

発表者は、授業を展開するなかで、生徒が成功体験を積んでいくことでさらなる意欲が向上し、次のステップに挑戦しようと思えることようになるような、授業における好循環を生じさせることを常に大切にされている。特別支援学校には、たとえば重度の生徒には重度の生徒なりの関りの難しさがある反面、生徒の知的発達レベルが軽度であればあるほど、実は自信がないことの裏返しからかえって教師の指導に反発したり虚勢や予防線を張ってしまうといった悪循環生じるリスクもある。このため、教師の側もつつい強い、あるいはネガティブな指導に偏ってしまい、教師、生徒間で社会的悪循環につながることも少なくないのだが、そのことによく気づいておられるからこそ、先に述べたような姿勢を大切にしておられるということが感じられた。

また、この発表者も先程の先生と連携しながら ICT を積極的に活用されており、先生方がダンスの見本動画を作成され、モニターで映しながら生徒のサポートができる教師の人数の確保を容易にしたり、iPad を活用した個人練習を可能にされていた。それ以外にも、生徒のダンスや演奏を iPad で撮影することで、セルフチェックや相互チェックをさせたり、今日による評価やフィードバックに活かしていけるのではないかとと思われる

最後に、発表者が目指されている授業内での関りの好循環を生じさせる支援方法として、応用行動分析と呼ばれる心理療法に基づく PBS（ポジティブな行動支援）というものがあり、米国では多くの教育現場で用いられており、最近は少しずつではあるが、我が国でも用いられつつある。PBS にはポジティブルールの設定や適応的な行動に対する正の強化、環境調整などの先行子操作、課題分析とプロンプティングあるいはそのフェイディングといったいくつかの基本的技法がある。さらにスモールステップの原理などがあり、授業の課題や生徒の実態に応じてそれらを組み合わせて用いることができる。

令和元年度 実践交流会 高等部分科会  
『社会科におけるキャリア教育の取り組み～外部連携授業を通して～』

●発表者： 前川 隆博

1 外部連携授業の必要性に対する一考

生徒は、教員から教わるだけでなく、その道の専門家から考え方や仕事の魅力を教わったり、現地へ出向いて、その技術を間近で学んだりすることは、キャリア教育として大きな効果があると思われる。その啓発的体験として外部連携授業は必要であると私は考える。

2 この授業の目標

生徒が卒業後の働くことに対する意識を十分に持つために、税金や給料などの勤労観、「働くこと」の意義や大変さなどの職業観を身につけられる。

3 これまでの実践例

(1) ユニクロ

- ・概要説明：対象の生徒や目的等  
(目的1：生徒にとって身近な店を例に、働くとはどういうことかを感じる)  
(目的2：接客やバックヤード業務がどういうものであるか)
- ・写真数点（生徒が衣類をたたんでいる姿や、接客をしている場面など）
- ・育てて欲しい力：職業観(「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」)

(2) 近畿財務局の出前授業

- ・概要説明：対象の生徒や目的等  
(目的1：収入に対して控除される税金、物品を購入する際にかかる消費税がどのように使われているかについて知る。)(財政)  
(目的2：目的1の税金の使われ方を含め、政策の方向性や人柄等を考えて候補者を選出するのは、自らの投票にであるということがわかる。)(政治)
- ・写真数点（授業風景の写真）
- ・育ててほしい力：勤労観(「自己理解・自己管理能力」)

4 詳細～近畿財務局の出前授業を例にして～

(1) 目的

目的1：収入に対して控除される税金、物品を購入する際にかかる消費税がどのように使われているかについて知る。)(財政)

目的2：目的1の税金の使われ方を含め、選挙の立候補者の政策の方向性や人柄等を選出

## I 教科等研究会からの報告

するのは、自らの権利であるということがわかる。) (政治)

### (2) 評価基準

- ・生徒がこれから生きていく中で関係のある税金など、お金の流れやその使い道などを知る
- ・財政を含め、政策方針など総合的に考慮して選挙の立候補者を選出するのは、自分自身で決めることを知る。

### (3) 事前指導

- ・出前授業の講師の説明
- ・実践時は「目的1」の話題が中心になるため、事前指導にて「目的2」の箇所を補完する。

### (4) 実践時の様子

- ・写真数点(授業風景の写真)

### (5) 事後指導

- ・感想文の作成
- ・振り返り学習(要点を絞った問題形式)

## 5 外部連携授業の評価

### (1) ユニクロより：保護者からの評価

### (2) 近畿財務局連携授業より：生徒の感想文の一部紹介

## 6 まとめ

これまでいくつか行ってきたが、生徒が真剣に、そして興味を持って集中して受けている姿をみると、教室の授業の中だけでは得ることのできない素晴らしい体験をしていると感じる。これからも、生徒がこのような実践ができるような授業をつくっていきたい。

## 7 ご指導頂きたいこと

- ・本発表のような課外授業や出前授業による生徒への効果、またはそれらを行う上での注意点
- ・その他実践例など

令和元年度 実践交流会 高等部分科会  
『社会科におけるキャリア教育の取り組み ～外部連携授業を通して～』

●助言者：関西福祉科学大学 加藤美朗先生

●発表者：本校教諭 前川隆博

●聞き取り：研究研修部

○発表全体の印象

出前授業などの外部連携を授業に組み入れることで、生徒が意欲的にいきいきと活動する様子がみられた。知的発達に課題を抱える生徒は、学校で学んだ内容を実生活に結びつけたり、活かすのが難しいことが少なくない。この発表では、たとえば滋慶学園のマナー講座では、生徒の勤労観や職業観を養うことにつながっていることが感じられた。新しい学習指導要領においてキャリア教育のさらなる推進が示されているが、このような出前授業が職業教育に偏らずに、社会科の授業などにおいてもキャリア教育の観点を置くことは重要である。近畿財務局の出前授業では、生徒たちが実社会で必要な「税」の知識を主体的に学ぶことができていると感じられた。ここでは、出前授業が行事的な取組に終わってしまうことがないように、事前学習で生徒が国会の仕組みを学んでおくことで、スムーズに出前授業に取り組んでいた。さらに、ユニクロでの実習を体験した生徒が、それまでは自分で買い物に行くことなどなかったにもかかわらず、実習後に自分から、それもひとりでユニクロに買い物に行くことを家庭で宣言し、実行した例など、実社会との外部連携の効果であったと考えられる。また、予習だけでなく復習のためのクイズ学習も、生徒の学びを深めることにつながっている。

○今後に向けて

課題としては、外部連携の取り組みを、カリキュラムにどのように位置づけるのかを具体的に考え、示す必要がある。計画を練り、題材や目的を明確にすることで、より良い外部連携ができる。学校等を対象とした出前授業を提供する事業所や企業等は確実に増えているが、一方で支援学校から申し込みの経験のないところが多いようである。府下の支援学校や地域の学校とも情報交換しながら外部連携を広げていく上で、受け入れ先が増え、実習先や雇用の拡大にもつながるのではないだろうか。

また、生徒が、実習や学習後に、感想をまとめさせ、発表会を行ったりすることも効果的である。そのような感想やお礼状などをお世話になった機関に送ることなども、生徒の意識を向上させ今後の主体的学びを促すことや、今後の連携をさらに進めることができると思われる。

令和元年度 実践交流会 高等部分科会  
『「気づき」「行動」する！清掃教育』

●発表者：杉村雅己

1) 清掃の意義・目的

- ・清掃とは
- ・本校 清掃授業のねらい シラバスの目標&ねらい
- ・個人的な想い

2) 清掃に対する認識&導入

- ・清掃（業）に対するイメージ  
嫌い、汚い、面倒、ネガティブなイメージが多い ⇒ だから仕事になる
- ・授業の導入 清掃の意義 われ窓理論

3) 気づきを促す実技指導

- ・用具ごとに異なる、気づきのきっかけ（しくみ）
- ・清掃場所ごとに異なる、気づきのきっかけ（しくみ）

☆画像や動画を用いて説明

4) 掃除で大切なこと&掃除の基本

- ・掃除道具をきちんとそろえる
- ・掃除道具の置き場所を決める
- ・工夫しながら掃除する

5) 生活・就労につながる清掃

清掃は仕事になる

アピリンピック

メインの仕事にしなくても、職場で掃除をすることはある

自立（一人暮らし）する場合は、家の掃除 一人暮らしじゃなくても、自分の部屋の掃除

6) その他&まとめ

- ・清掃を通じた学習例  
清掃交流  
身だしなみチェック  
アピリンピック など

令和元年度 実践交流会 高等部分科会  
『「気づき」「行動」する！清掃教育』

●助言者：関西福祉科学大学 加藤美朗先生

●発表者：本校教諭 杉村雅己

聞き取り：研究研修部

○発表全体の印象

清掃について、発表者が生徒に、目で見てわかりやすい視覚教材を作成し、清掃をする意義や目的をわかりやすく伝えている。このような準備が丁寧かつ適切に行われていることで生徒は、清掃の目的やルール、あるいは用具の使い方や場面での使用器具の違い、順序や作業内容などを理解でき、見通しをもって意欲的に取り組もうとしている。このようなことが確実に実践されているからこそ、発表者がさらに目指されている、生徒のさらなる自らの清掃に関する「気づき」とその表現にもつながっていくのであろう。学習指導要領でも、生徒の主体的な「気づき」の大切さが示されている。また、実際の生徒の清掃の遂行に対して発表者は、具体的かつポジティブな表現を心がけて生徒に指導や支援を行っている。その場その場でフィードバックを行うことで、生徒の具体的な「行動」を促されている。結果的に生徒は達成清掃を通して達成感を味わい、意欲を高く持つことができている。

○今後に向けて

近年は、就労訓練を受ける方や支援学校の生徒を対象とした清掃のような技能を競う大会等が大阪府をはじめ行われている。たとえば東京都教育委員会はマニュアルを作成して公開し、そのなかで道具の選択や使い方などを多くの写真を用いて載せるとともに、具体的かつ詳細な評価項目を示している。確かにこのような取組に参加できる生徒は限られているかもしれないが、清掃活動はどの生徒にとっても日常生活や自立生活と結び付く重要な活動である。仕事とする以外でも、卒業後に利用する施設や住処でも大切なスキルである。また、どの生徒もが本日発表されたようなすべての工程を行えるようになることを目標とするのではなく、たとえば分業的な役割分担や、限定的なスキルをきわめていくといったことが個々の生徒の目標になってよい。

就労例でも、たとえば大手企業の社員食堂で、たくさんのテーブルのふき掃除と醤油やソース、爪楊枝などの補充作業が主な仕事内容だといったものもある。個々の生徒の特異な、あるいは持続可能なスキルを見つけていくといった視点も必要であろう。

また、専門的に清掃技能を学んだ生徒が、他のグループ、あるいは他学年や他学部などに技能を伝えるということに取り組むことで、伝えた生徒、伝えられる生徒双方の理解を一層高め、教える側の自信やあるいは新たな気づきにもつなげていくことができるのではないだろうか。

# 「生活科・算数科」(グループ) 学習指導案

大阪府立豊中支援学校

指導者 藤川 智子 (T1)  
酒井 幸子 (T2)  
恒川 仁美 (T3)

1. 日時 令和1年10月29日(火) 第3時限(10:50~11:30)
2. 場所 小学部4学年2組 教室
3. 学部・学年・組 小学部3、4年 シナモングループ 8名(3年生5名、4年生3名)
4. 単元(題材)名 「いくら?」「〇円を出そう」
5. 単元(題材)目標

・必要な金額を出せる。(指定の硬貨を数えて出す)

《特別支援学校 小学部 学習指導要領「生活科:3段階:ク・金銭の扱い(イ)》

・合計、おつり、1つあたりの値段を求める式を考えられる。

《特別支援学校 小学部 学習指導要領「算数科:3段階:A・数と計算:イ(ア)㊦~㊧、(イ)㊦》

## 6. 児童観

本グループは3年生5名、4年生3名の計8名で構成されている。学年の状況などに応じて毎年度集団構成が変化するため、昨年度までの学習内容は児童によって様々である。金銭の学習した児童もいれば、学習の経験がなく金種を把握していない児童もいる。数と計算の理解に関しても、3桁の加法・減法を筆算とする児童、10の合成分解を学習中の児童、30までの具体物を10の束を作りながら数えることを練習中の児童と学習内容に大きな差がある。

本グループの児童の多くは、話す、書く、数える、計算することが得意である一方、体全体や手指の不器用さが目立つ、構音が不明瞭、社会的なルールに則って行動することに難しさがあるなど、生活面での課題のある児童も多い。全体として、社会経験が少なく、物を数えたり計算したりすることを机上でできていても、実生活と結び付けて活かすことに至っていないように感じる。

買い物に関しては、校内で行われるPTAバザーやお楽しみ会のプレゼント購入、それらの事前学習で、教員と共にお金を払って商品を受け取る経験を毎年繰り返し積んでいる。日常生活では、休日に家族と買い物に行く児童も多いことが普段の会話や連絡帳から窺え、お店にあるものはお金を払って得られることを理解しているようだが、レジでお金を払う経験は少ないようである。

学習意欲の高い児童がほとんどだが、気分によっては着席が難しい、自分の思っていることと違うことが起きるとイライラする、周囲が気になりすぎて集中できない、声の大きさの調節が難しい、大きな音が苦手という児童もおり、授業中には学習環境に関する支援が必要な場面が多い。また、身体の不器用さに対する支援として、年間を通して身体模倣(手足の動き)の学習も取り入れている。

## 7. 教材観

本グループの児童は、将来自分でお金を稼いで、自分でお金を使う子たちであると考えている。この子たちが高等部を卒業する約10年後の日本では現金を使って買い物をするのか、現金を使った学習に意味があるのか悩む点があった。しかし、現金を操作してお金の増減をイメージできるようになっておくことは、お金の管理という点で必要であると考え、お金の学習を取り上げることとした。また、買い物学習は、陳列された品物の中から自分の好きな物を選べるという点で学習意欲を引き出し、欲しい物を人に伝えたり、お金や物をやり取りしたりするというコミュニケーションの機会も作れることも利点であると考えた。

本単元では、お金（硬貨）を題材とする学習で、実物の硬貨を使用する。模型の硬貨を使うことも考え、本単元を始めるにあたって児童8名に、実物／模型の両方を使って、金種の区別ができていないかを調べた。その結果、実物と実物、模型と模型、絵と模型のマッチングはスムーズにできていたが、実物と模型、絵と実物のマッチングに戸惑う児童が数名いた。より細かに観察すると、新しい硬貨（輝いているもの）と古い硬貨（くすんだ色の物）を同じ金種と判断できていない状況があった。実生活に活かすためには、実物を使って学習することが有効であると考えた。

## 8. 指導観

単元全般で模型などを用いてお店屋さんごっこで学習を進めることも考えたが、手指の不器用さから、物の操作に注意が向いてしまったり、時間がかかってしまったりする児童が多いことが予想されたため、「お金」の課題に注意を向けるために、紙面での問題提示方法で学習を進めることにした。グループの人数が8人であり、一人一人の待ち時間を減らし、より多く活動するためというのも理由の一つである。ただ、買い物学習のまとめとして、買い物ごっこに取り組むことで、意欲的に取り組める動機づけとしたい。

また、児童観にもある通り、グループ内での学習目標の差が大きいため、学習内容を2種類に分けることにした。一つ（★メンバー）は、お金（硬貨）の操作について習得済みであり、本単元では各自が学習中の加減乗の式を考えることを目指すグループである。もう一つ（☆メンバー）は、お金（硬貨）の学習が未習得であり、本単元を通して3桁または2桁の金額を、必要に応じて3種の金種表（1円、10円、100円）を使いながら出すことを目指すグループである。

8名を2テーブルに分け、各テーブルに★メンバー2人、☆メンバー2人ずつを配置してペアを作った。★メンバーが立式して出した答えの金額の硬貨を、ペアの☆メンバーがケースから取り出し、それを★メンバーが確認するという形で学習を進めている。

本単元では、問題にあった式を考えることを目的としており、計算して答えを出すことは求めている。（個別学習で取り組んでいる）そのため、計算に負担を感じる場合には計算機を使っている。

9. 単元（題材）の評価規準・キャリア教育の観点

① 評価規準

A 知識・技能		B 思考・判断・表現		C 主体的に学習に取り組む態度	
☆	★	☆	★	☆	★
①金種と必要数を理解して出せる。	②代金やおつりの計算方法を理解して書ける。	①「〇円玉」と聞いたり、絵を見たりして必要な硬貨を指定された枚数出す。	②商品に応じた値段を読み取っている。	①硬貨を選ぼうとしている。	②問題、表、値札、品物を見て必要な情報を取り出し、立式しようとしている。

② キャリア教育の観点

1 コミュニケーション	2 協調する力	3 ルール理解・遵守力	4 健康管理力	5 役割遂行力	6 見通し、行動する力
①あいさつをすることができる。 ③自分の意見を伝えることができる。 ⑤呼名に応じることができる。 ⑥話を聞き、理解できる。 ⑧友だちと関わるることができる。	③意思を表出することができる。 ④我慢できる。	④順番を守ることができる。 ⑨時間を守ることができる。 ⑩買い物をすることができる。		⑤安全に配慮して活動することができる。 ⑪役割遂行することができないときに、助けを求めることができる。 ⑫作業のミスに気づき、修正することができる。	①様々な情報から必要なものを得ることができる。 ②見通しを立てて行動することができる。

10. 単元の指導と評価の計画（全10時間、本時は第6時）

次	時	学習内容	評価規準		
			A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
第一次	1～3	◎硬貨の種類を知る／復習する。 ☆硬貨の組み合わせによって、色々な金額を出せることを知る。 ★違う金種であっても、同じ金額を出せることを知る。	①		①

第二次	4～8 本時 6	◎お金の学習をする ★表や問題文、問題表を見て、適した式を考えて書く。 ☆指定された金額を、金種表を見て出す。	②	①②	
第三次	9、10	◎買い物ごっこをする ☆客：欲しいものを選ぶ。代金を払う。 ★店員：客が買った物の計算をする。代金が合っているか計算する。			①②

## 11. 本時の展開

### (1) 本時の目標

- ☆ 必要な硬貨を指定された枚数、金種表や教員のヒントを参考にしながら取り出す。
- ★ 渡された問題と商品価格表を照らし合わせて、商品の金額を読み取る
- ★ 問題に合った立式をする。(計算そのものは必要に応じて教員とともに計算機を使用する)

### (2) 本時の評価規準

- ☆ 【B①】 指定された金額を、正しく取り出して、表やトレイに置ける。
- ★ 【B②】 指定された商品の価格を読み取り、式に用いることができる。
- ★ 【A②】 問題に合った式を考えて書ける。

### (3) 本時で扱う教材・教具

- 《全体》ミニホワイトボード、ホワイトボードマーカー、商品価格表、磁石
- 《各テーブル》 名札、金種表（硬貨3種）、トレイ、硬貨ケース（硬貨全種入り）、ホワイトボードマーカー、問題用紙4枚（予備として白紙も用意）、鉛筆、消しゴム、計算機、ミニ商品価格表

### (4) 児童生徒の実態と本時の目標

硬貨全種：1, 5, 10, 50, 100, 500円玉 / 硬貨3種：1, 10, 100円玉

	児童の実態	本時の目標	評価規準
A★ 4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3桁の加減法の筆算ができる。九九について学習中。</li> <li>・合計金額やおつりの計算ができる。</li> <li>・硬貨全種を使って指定された金額を出したり読み取ったりできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を読み取って、立式できる。(加減乗)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題に合った立式ができる。</li> </ul>
B★ 3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2桁の加減法ができる。九九を言える。</li> <li>・合計金額やおつりの計算ができる。</li> <li>・硬貨全種を使って指定された金額を出したり読み取ったりできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を読み取って、立式できる。(加減乗)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題に合った立式ができる。</li> </ul>

C★ 4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2桁の繰り上がりのある加法を練習中。</li> <li>・硬貨全種を使って指定された金額を出せるようになりつつある。</li> <li>・自分の思いと違う状況が起きるとイライラしやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を読み取って、立式できる。(加減)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題に合った立式ができる。</li> </ul>
D☆ 3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10の合成分解を練習中。30程度の物を10の束を作りながら数えられる。</li> <li>・「〇円玉」と聞いて正しい物を取り出せる。</li> <li>・学習内容がパターン化しやすい。(般化が難しい)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員が位を強調して言った2～3桁の金額を出せる。(硬貨3種)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トレイに正しい金額を出せる。</li> </ul>
E☆ 3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・30程度の物を10の束を作りながら数える練習中。</li> <li>・硬貨の絵と実物の一致ができる。</li> <li>・学習意欲が高く模倣する力も高いが、理解が伴っていないことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金種表を見ながら、各金種の必要な枚数を教員と一緒に考え、2～3桁の金額を出せる。(硬貨3種)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数字が書かれた金種表に正しい金額を置ける。</li> </ul>
F☆ 3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・30程度の物を一つずつ指差しで数えられる。</li> <li>・硬貨の絵と実物の一致ができる。</li> <li>・少しでも難しいと感じると、取り組む意欲がなくなる。</li> <li>・気分によっては着席が難しいこともある。必要に応じて「見ておきます」と伝えて休憩することがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金種表に書かれた数字や丸の数に合わせて、2～3桁の金額のいずれか一桁を出せる。(硬貨3種)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金種表に1桁でも正しい枚数を置ける。</li> </ul>
G★ 4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2桁の加減法ができる。</li> <li>・買い物の経験が比較的多く、硬貨3種を使って指定された金額を出せる。</li> <li>・パターン化して学習している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を読み取って、立式できる。(加減)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題に合った立式ができる。</li> </ul>
H☆ 3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り上がりのある加法、繰り下がりのある減法を学習中。</li> <li>・50程度の物を教員の声かけに応じて10の束を意識して数えられる。</li> <li>・硬貨の絵と実物の一致ができる。</li> <li>・いつもと違う状況があると気になり、納得するまで学習に取り組めないことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金種表を見ながら、各金種が必要な枚数を教員と一緒に考え、2～3桁の金額を出せる。(硬貨3種)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金種表に正しい金額を置ける。</li> </ul>

(5) 本時の学習過程

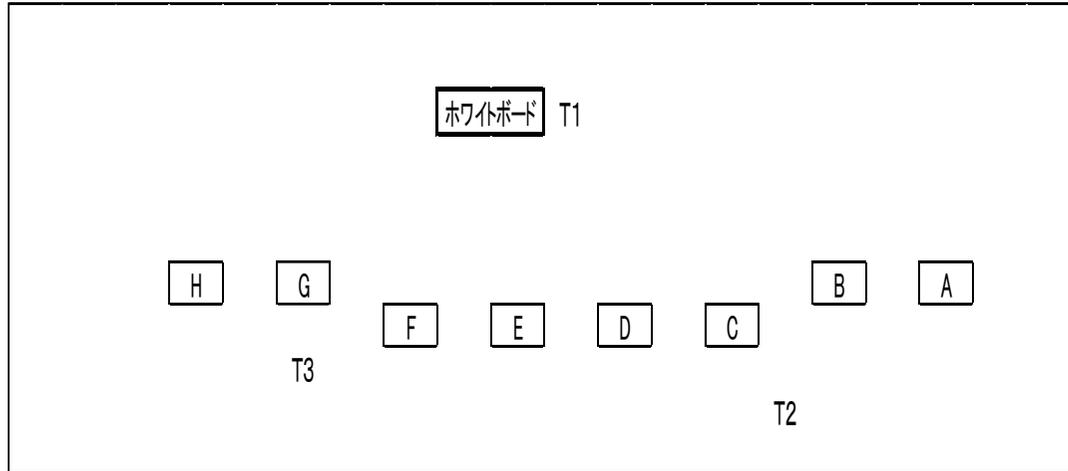
時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び 支援の手だて等	評価規準 (評価方法)	キャリア教育の観点 〔具体的に記入〕	キャリア教育 項目番号
13分 導入	①はじめのあいさつをする ・あいさつの言葉を言ったり、ジェスチャーをしたりする	《T1、T2、T3》足を床につけ、T1を見るよう促す。 《T1》全児童と1回ずつ目が合ってからあいさつをする。 《T2、T3》発声・ジェスチャーを促す。 《T1》上手にできていることをほめる。		・言葉かけに応じて着席する。 ・教員の指示を聞いて、前を向く、足を床に着ける、背筋を伸ばす。 ・教員の合図に合わせて声やジェスチャーであいさつできる。	3-⑨ 1-⑥ 1-①
	②今日の予定を確認する	《T1、T2、T3》ミニホワイトボードに注目を促す。 《T1》様子を見て予定を読んでもらう。		・今日の学習内容が分かる。 ・学習内容に見通しが持てる。	1-⑥ 6-②
	③名前を呼ばれたら、右手を挙げて「はい」と言う	《T1》T1に注意を向けてから名前を呼ぶ。 《T2、T3》T1を見ることを促す。 《T1》右手をまっすぐと挙げることを促す。 《T1》上手にできていることをほめる。		・自分の名前が呼ばれたら返事ができる。	1-⑤
	④まねっこポーズをする ・T1の真似をする	《T1》ポイントを伝える。(鏡の関係で真似をする／10秒キープする／肘をしっかり伸ばす。) 《T2、T3》10秒の間に、足の角度などを調整する。		・10秒間、姿勢を保てる。	2-④
22分 展開	⑤「お金」についての学習 (2テーブルに分かれて実施) ①後ろのテーブルの自分の名札のところに、椅子を持って移動する ②★(A, G)表と問題を見て立式して、計算する(必要に応じて計算機使用)	◎机上にはその都度必要な物のみを置くようにし、不必要なものは片付ける。 ①《T1、T3》児童が着席したら、名札を片付ける。 ②《T1、T2》式に迷っている場合は、「合わせてだから」「おつりは?」「〇個買うから」等、ヒントとなる言葉を伝える。 《T1、T2》書き終わったら、筆記用具や計算機を片付ける。	【B②】 (行動観察) 【A②】 (行動観察)	・教員の指示を聞いて、移動開始できる。 ・椅子がぶつからないように気をつけながら移動できる。 《②～④について》 ・自分の順番がきた時に取り組む。 ・表から、商品の値段を読み取れる。	1-⑥ 5-⑤ 3-④ 6-①

	<p>③☆ (H、E) 答えの金額を取り出してトレイや金種表に置く</p> <p>④★ (A、G) 出された金額が合っているか確認する</p> <p>メンバーを交代し、②～④を繰り返す</p> <p>★ (B、C) ☆ (F、D)</p>	<p>③《T1、T2》児童によっては、まずは支援なしで取り組むことを促し、その後必要に応じて支援を行う。(位を強調して伝える／金種表に数字を書く／金種表に丸を描く等)</p> <p>④《T1、T2》出された硬貨を一度トレイに移し、読み取することを促す。難しい場合は、再度金種表にのせる。両替できるものがあるか確認する。</p> <p>②～④《T3》学習に取り組みにくい児童が見通しを持ちやすくなるような言葉かけをしたり、励ましたりする。</p>	<p>【B①】 (行動観察)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・難しい場合には、教員に手伝ってもらおうよう伝えられる。</li> <li>・間違っていた場合には再度取り組める。</li> </ul>	<p>5-⑪</p> <p>5-⑫</p>
5分	<p>6まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各テーブルでの取り組みや、頑張っていたことの紹介を話したり聞いたりする</li> <li>・次回の予定を聞く</li> </ul>	<p>《T1、T2、T3》机上の物を全て片付ける。</p> <p>《T1》今日頑張ったことを聞いたり、伝えたりする。</p> <p>《T2》頑張っていたことを伝える。</p> <p>《T1》次回の予定を伝える。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の話の聞くことができる。</li> </ul>	1-⑥
	<p>7おわりのあいさつをする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつの言葉を言ったり、ジェスチャーをしたりする</li> </ul>	<p>《T1、T2、T3》足を床につけ、T1を見るよう促す。</p> <p>《T1》全児童と1回ずつ目が合ってからあいさつをする。</p> <p>《T2、T3》・発声・ジェスチャーを促す。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の指示を聞いて、前を向く、足を床に着ける、背筋を伸ばせる。</li> <li>・教員の合図に合わせて声やジェスチャーであいさつできる。</li> </ul>	<p>1-⑥</p> <p>1-①</p>

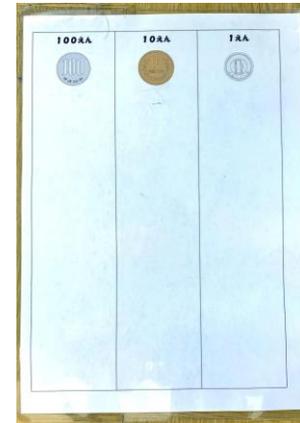
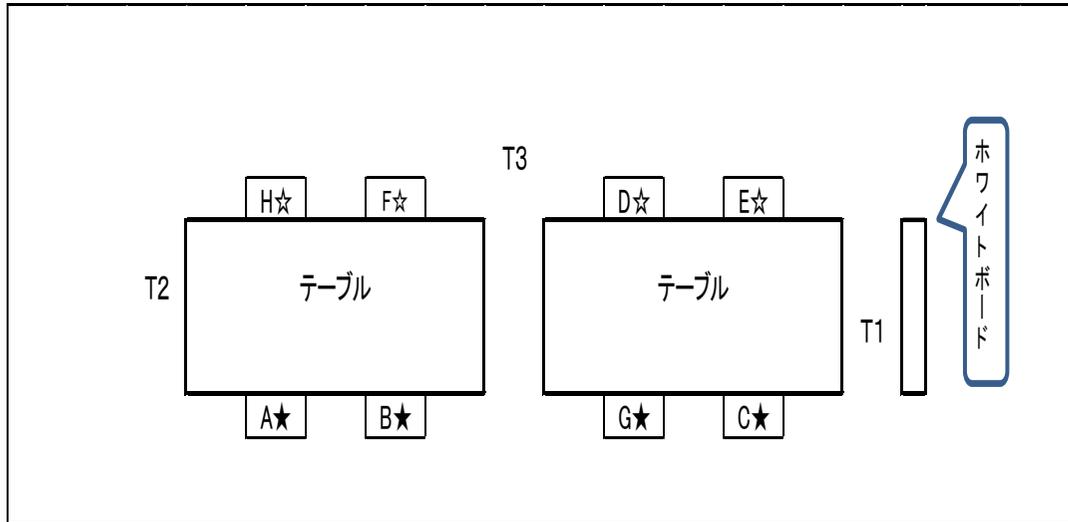
(6) 教室配置等

(正面を上にして、児童や教員の位置、準備した教材・教具の位置、配置等を示す。)

はじめのあいさつ～まねっこポーズ



おかねのがくしゅう～おわりのあいあつ



《金種表》



《硬貨ケース》

T1 テーブルはバラバラ、  
T2 グループは金種ごとに  
まとめて入っている。

1 3 円	2 0 円	3 円	3 4 円	2 3 円
2 円	5 8 円	7 2 円	2 5 円	8 1 円

《商品価格表の例》

ペーパースターと うまいぼうを かうと、  
ぜんぶで 何円？

【しき】

【こたえ】

---

( ) 円 ( ) 円 ( ) 円

ぜんぶで いくら？

【しき】

【こたえ】

《問題文の例》

# 「職業科」(職業) 学習指導案

大阪府立豊中支援学校

指導者 T1: 西岡 明信

T2: 越智 博一

T3: 芦田 麻美

1. 日時 令和元年12月19日(木) 第3、4時限(10:55~12:05)

2. 場所 木金工室

3. 学部・学年・組 中学部・第3学年・1グループ 12名

4. 単元(題材)名 おりぞめ

5. 単元(題材)目標

- ・「おりぞめ」の作業に達成感を得て、進んで取り組む。(『特別支援学校 中学部 学習指導要領 「職業・家庭」2段階 A職業生活 ア働くことの意義(ウ)』)
- ・作業課題が分かり、使用する道具や素材等の使い方を理解する。(『特別支援学校 中学部 学習指導要領 「職業・家庭」2段階 A職業生活 イ職業(ア)㊦』)

6. 生徒観

本校は、知的障がいのある生徒が在籍する支援学校である。中学部・第3学年の授業は、生徒の発達段階、習熟度や作業能力等を考慮して、4つのグループに分かれている。本グループは、その4つのグループの中で、生徒の発達段階や作業能力が1番高く、言葉でのコミュニケーションができる12名で構成されたグループである。集団になると生徒同士がふざけあうことで、トラブルが生じることがあるため、教員の言葉かけや見守りが必要だが、一斉での指導や一斉での作業を行うことができる。

「ものを作ることが得意」と思っている生徒がいる一方で、これまでの経験が少ないことや、課題に取り組んでもうまくできなかった経験から「ものを作ることが苦手」と思い込み、自信をなくしている生徒もいる。そのため、生徒が「作りたい」という意欲、「できた」という自信を高められるような教材を探して準備し、授業を行っている。これまで行ってきた「おりぞめ」の授業では、生徒たちが意欲的に活動することができている。

7. 教材観

「おりぞめ」とは、和紙を折り畳んで、締め、染料をつけた後に広げ、できた模様を楽しむものづくりである。自分で、色や染める部分を選ぶことで、世界に1つだけの作品をつくることができる。そのため、成就感を味わえる活動を容易に設定することができるすばらしい教材で、職業の授業だけでなく、美術や自立活動などの時間にも活用することができる。[※注1]

うちわ、はがき、ノートなど紙できている製品であれば、自分が染めた和紙を使って、オリジナルの製品を作ることができる。そのほかにも、和紙をラミ

ネット加工して、封筒、ファイル、袋などを作る方法も開発されている。周囲の人に自分たちが作った製品を使ってもらうことで、その感想や評価を受けて満足感を味わうことを通じて、主体的に取り組む意欲や態度を育成することができる。

〔※注1〕〈おりぞめ発表会〉（第一次）、〈おりぞめパーティ〉（第二次・本時）は、助言者の山本俊樹氏が考案された授業プランで、全国各地の特別支援学級・特別支援学校で実施されている。（参考文献：山本俊樹『特別支援教育はたのしい授業で』、『みんなのおりぞめ』ともに仮説社発行）

## 8. 指導観

生徒が初めて学ぶことであっても「やってみよう」「やりたい」という意欲をもつためには、「どのような教材を準備するか」が大切であるが、「何をどの順番で教えるか」ということも重要である。そのため、本時に行う授業プラン〈おりぞめパーティ〉では、まずは〈ショータイム〉ということで、教員が6種類の染め方を決められた順番で生徒にみせる。その後の〈フリータイム〉で、生徒は染め方の見本から選んで同じように染めてもよいし、自分でやり方を考えて染めてもよい。

染めて広げた後には、「いいでしょう」「いいね」という言葉をかけあう。生徒同士で良い面を評価しあうことで、生徒の自己肯定感が高まるとともに対話的な授業になると考える。

また、研究授業の助言者の山本氏に、外部講師として〈最新の染め方〉を覚えてもらう場面も設定する。直接、専門家の技術を間近に見て学ぶ貴重な経験ができ、生徒の働くことへの憧れや意欲を高めるという深い学びへとつなげることができる。〔※注2〕

染め終えた後には、「自分がお気に入りの作品」を1枚選び、その作品とともに記念撮影を行う。授業の記憶だけでなく、記録（写真）として残すことで、自己肯定感を高める手がかりとして活用する。具体的には、本時に染めた和紙を使って写真立てを制作し、記念撮影した写真を飾れるようにする。

授業の最後には、生徒に「授業アンケート」を行い、「授業が生徒にとってどうだったか」を知り、教員の思いだけでなく、その授業を受けた生徒自身の意見を大切に、よりよい授業を考え続ける。

〔※注2〕外部講師に〈最新の染め方〉を覚えてもらう部分は、授業プラン〈おりぞめパーティ〉にはない特別な内容。

## 9. 単元（題材）の評価規準・キャリア教育の観点

### ① 評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
① 〈おりぞめ〉の技法を使って、様々な模様を作る。 ② 染め紙を使った製品を作る。	① 見本を参考にしたり、自分で考えたりして、染めたい色と場所を選ぶ。	① 和紙を折り畳んで染めて、オリジナルの模様・製品を作ろうとする。

② キャリア教育の観点

1 コミュニケーション	2 協調する力	3 ルール理解・遵守力	4 健康管理力	5 役割遂行力	6 見通し、行動する力
①あいさつをすることができる。 ③自分の意見を伝えることができる。 ⑥話を聞き理解できる。	⑤他者の要求に適切に応じたり、拒否したりすることができる。	⑩道具を正しく使うことができる。		⑦物を扱うときの基本動作ができる。	③自己選択・自己決定することができる。

10. 単元の指導と評価の計画（全6時間、本時は第3時）

次	時	学習内容	評価規準		
			A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
第一 次	1	〈おりぞめ〉の基礎 ・和紙を染める。	①	①	
	1	〈おりぞめ〉の基礎 ・和紙を折り畳む。	①		
第二 次	1 (本時)	〈おりぞめ〉の実践 ・折り畳んだ和紙で染める。	①	①	
第三 次	3	〈おりぞめ〉の応用 ・染め紙を使った製品作り。	②		①

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・染め方の見本を参考にし、指示された枚数の染め紙を作ることができる。

(2) 本時の評価規準

【A①】 〈おりぞめ〉の技法を使って、様々な模様を作ることができる。(知識・技能)

【B①】 見本を参考にしたり、自分で考えたりして、染めたい色と場所を選ぶことができる。(思考・判断・表現)

(3) 本時で扱う教材・教具

[全体] 糊付ボード・マーカー、掲示用磁石、〈おりぞめパーティ〉用掲示物、カメラ、[各テーブル] 新聞紙、染料セット、染め方の見本・ルールのカード

(4) 生徒の実態と本時の目標

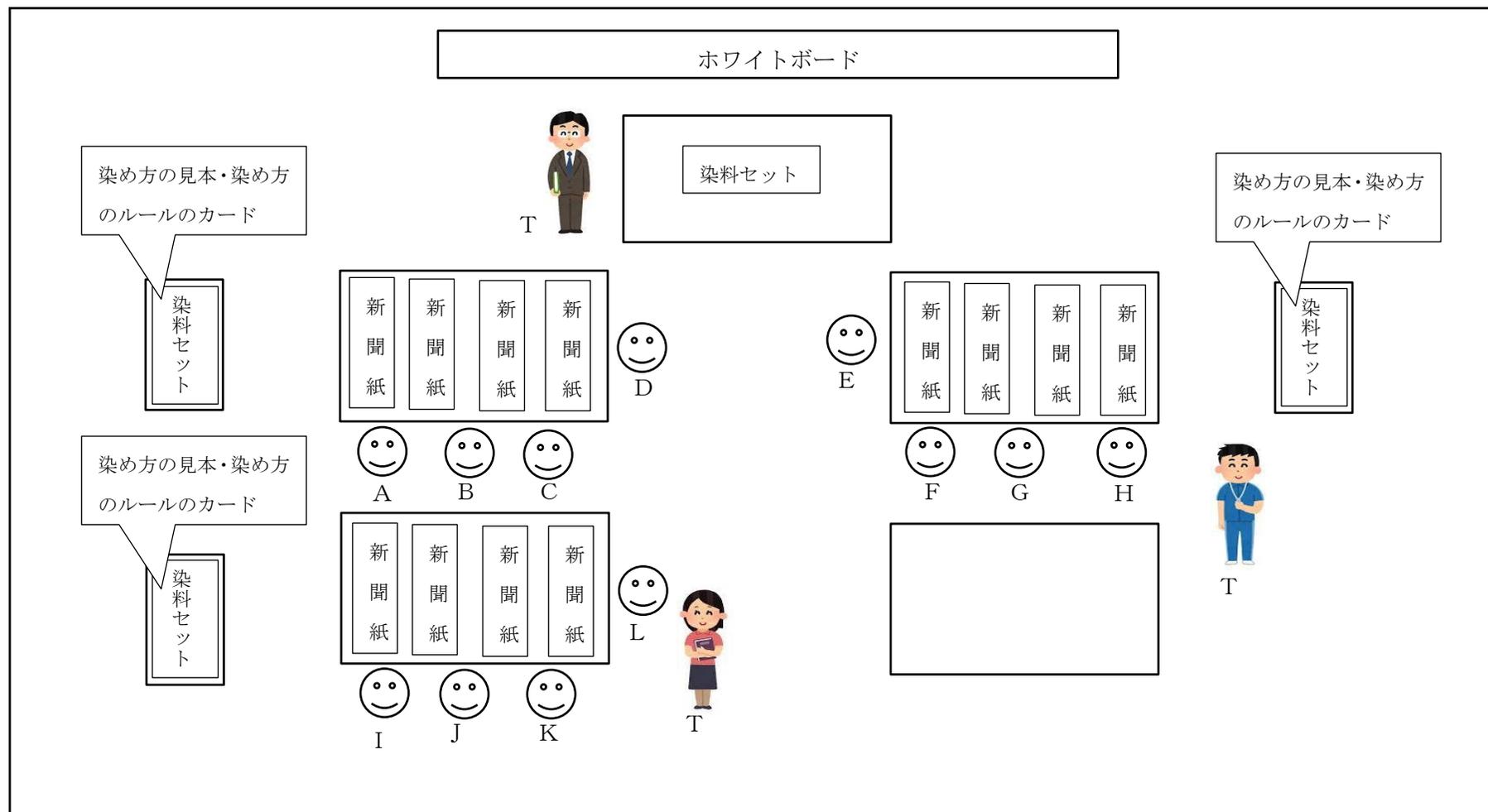
	児童生徒の実態	本時の目標	評価規準
A	ものづくりに関する知識が多く、自信を持って作業に取り組んでいる。丁寧に作業することが課題。	教員や外部講師の説明をよく聞いて、丁寧に作業することができる。	指示に合わせて、丁寧に作業することができる。【A①】
B	失敗することもあるが、次に何をすればよいのかを自分で考えて取り組むことができる。	教員の指示に合わせて、作業をすすめることができる。	最新の技法を使って、和紙を染めることができる。【A①】
C	真面目に作業し、正確にできているかを教員に確認することができる。	自分で染める場所や色を考えて、作業することができる。	自分で考えて、オリジナルの模様を作ることができる。【B①】
D	すぐは作業に取り組めないことが多いが、自分のタイミングでとりかかることができる。	授業に参加し、集団の中で、染め紙を作ることができる。	授業に参加し、教員や友だちと一緒に作業することができる。【A①】
E	気分が乗らない時に作業が雑になることもあるが、間違っている内容がわかると訂正できる。	指示された枚数の模様が作れるまで、集中して作業に取り組むことができる。	指示された枚数の染め紙を作ることができる。【A①】
F	自分が納得できるように、どうすればよいのかをよく考えながら、作業をすすめることができる。	自分でどんな模様が作りたいのかを考えて、作業することができる。	自分が作りたい模様を考え、染め方を工夫することができる。【B①】
G	作業内容を理解し、集中して作業に取り組むことができる。	〈おりぞめ〉の様々な技法を使って、多様な模様を作ることができる。	多様な染め紙を作ることができる。【A①】
H	わからないことや納得できないことがあれば、教員にたずねて、作業に取り組むことができる。	自分でどんな模様が作りたいのかを考えて、作業することができる。	自分が作りたい模様を選んで、染めることができる。【B①】
I	左半身に麻痺があるため、少し配慮が必要だが、意欲的に作業を行うことができる。	自分で染める場所や色を考えて、作業することができる。	染めたい場所に染めたい色をつけることができる。【B①】
J	説明をよく聞き、教員の問いかけに積極的に答えられる。じっくり落ち着いて作業ができる。	〈おりぞめ〉の様々な技法を使って、多様な模様を作ることができる。	最新の技法を使って、和紙を染めることができる。【A①】
K	手先が器用で、細かい作業も正確に行うことができる。	自分でどんな模様が作りたいのかを考えて、作業することができる。	最新の技法を使って、和紙を染めることができる。【A①】
L	教員に質問したり、自分の気持ちを伝えたりしながら、作業に取り組むことができる。	自分で染める場所や色を考えて、作業することができる。	自分が作りたい模様を選んで、染めることができる。【B①】

(5) 本時の学習過程

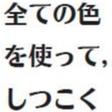
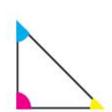
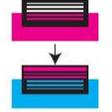
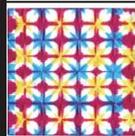
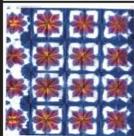
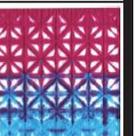
時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び 支援の手だて等	評価規準 (評価方法)	キャリア教育の観点 〔具体的に記入〕	キャリア教育 項目番号
10分 導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつをする。</li> <li>前時の授業を振り返る。</li> <li>本時の学習内容を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師を紹介し、あいさつをする。(T1)</li> <li>前時に折り畳んだ和紙をみせる。(T1)</li> <li>スケジュールを板書する。(T1)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師に、あいさつすることができる。</li> </ul>	【コー①】
20分 展 開 1	<p>〈ショータイム〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>染め方のルールを聞く。</li> <li>染め方の実演をみる。</li> </ul> <p>〈フリータイム〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>和紙を1枚ずつ、合計3枚染める。</li> <li>染めた紙を1枚ずつ広げてみせる。</li> <li>自分の名前が書かれた新聞紙の上に置いて乾かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>染め方のルールを板書して伝える。(T1)</li> <li>生徒が「やりたい」「できそう」と思ってもらえるように、代表的な染め方6種類を実演し、白板に掲示する。(T1)</li> <li>実演を見ていない、または見えにくい生徒がいれば、見る場所の移動を提案する。(T2、T3)</li> <li>染めることにとまどっている生徒がいれば、染め方の見本を見せて、自己選択、自己決定して染められるように促す。(T1、T2、T3)</li> </ul>	<p>【A①】</p> <p>【B①】</p> <p>(行動観察)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>説明を聞いたり、実演をみたりして、やることを理解できる。</li> <li>染料や和紙、布を正しく扱って、染めることができる。</li> <li>見本を参考にしたり、自分で考えたりして、染めたい色と場所を選ぶことができる。</li> <li>紙や染料や布を正しく扱うことができる。</li> <li>他者の作品を評価し、相手に伝えることができる。</li> </ul>	<p>【コー⑥】</p> <p>【ルー⑩】</p> <p>【見③③】</p> <p>【役⑦⑦】</p> <p>【協⑤⑤】</p>
25分 展 開 2	<p>〈スペシャルゲストのコーナー〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師の指示に従って、〈最新の技法〉で染める体験をする。染める色や場所は、自分で選ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タイミングを逃さずに、評価したり、励ましたりする。(T1、T2、T3)</li> <li>迷っている生徒がいれば、質問をするように促す。(T1、T2、T3)</li> </ul>			
5分 展 開 3	<p>〈記念撮影〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分が染めた紙の中から「好きな模様を1枚」を持って、全員で写真撮影をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1枚をなかなか選べない生徒がいれば、教員が好きな模様をいくつか伝え、自己決定するための選択肢を提示する。(T2、T3)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が染めた紙の中から、「お気に入りの1枚」を選ぶことができる。</li> </ul>	【見③③】

10分 ま と め	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のまとめ。</li> <li>・「授業アンケート」の記入。</li> <li>・次回の学習内容を知る。</li> <li>・あいさつをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒と外部講師に感想をたずね、作品を見ながら授業について簡単に振り返る。(T1)</li> <li>・何のために「授業アンケート」を記入するのかを伝える。(T1)</li> <li>・次回に制作する作品を見せて、説明する。(T1)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業アンケート」に自分の意見や感想を書くことができる。</li> </ul>	【コー③】
--------------------	---	--	--	---	-------

(6) 教室配置等（正面を上にして、児童生徒や教員の位置、準備した教材・教具の位置、配置等を示す。）



① 染め方の見本（6種類）

1番手	2番手	3番手	4番手	5番手	6番手
【角 染め】	【重ね 染め】	【一色 染め】	【多色 染め】	【ちよこつと 染め】	【面 染め】
					
色を変えて角を染める	一つの角に3色を重ね染めて、向かいの辺を染める。	ドボンと一色で染める	全ての色を使って、しつこく 色も回数も多く染める	少しだけつけて染める	面で染める
					

©Toshiki Yamamoto 2014

② 染め方のルール

ORIZOME PARTY おりぞめパーティ orizome

# ルールは3つ

- つけたらギュツ
- 一枚ずつ染めて広げる
- 「いいでしょう」→「いいね」

NAME

©Toshiki Yamamoto 2014 

(①②ともに、授業プラン〈おりぞめパーティ〉のためのカード。山本俊樹氏作成)

### ③ 授業アンケート

なまえ

【しつもん1】

今日の〈おりぞめパーティ〉はどうでしたか？ 1つえらんで、○をつけてください。

- ア. とてもたのしかった。
- イ. たのしかった。
- ウ. たのしくも、つまらなくもなかった。
- エ. つまらなかった。
- オ. とてもつまらなかった。

【しつもん2】

いい作品ができましたか？ 1つえらんで、○をつけてください。

- ア. とてもいい作品ができた。
- イ. いい作品ができた。
- ウ. いい作品ができたとも、つまらない作品ができたともいえない。
- エ. つまらな作品ができた。
- オ. とてもつまらない作品ができた。

【しつもん3】

「たのしかったこと」「うれしかったこと」「びっくりしたこと」「わかったこと」など、なんでもいいので、今日の授業の感想を教えてください。

【しつもん4】

スペシャルゲストの山本先生へ

【しつもん3】 授業の感想

- ・分かったこと、『どのそめかたでも、おりぞめはきれい』
- ・きょうしつにはいったらどうがでとられててびっくりした。水をつかったほうがとてもきれいだった。
- ・スペシャルゲストの山本先生から教えられたそめ方をびっくりしました。
- ・初めの3枚のうち2番のおりぞめが出来てうれしかったです。
- ・キレイなさくひんができてうれしかったです。
- ・いい作品ができました。よかったです。
- ・おりぞめを普通に染めるのと、水につけて染めるとの違いが分かったのしかったです。
- ・おりぞめのひろげ水を教えてくれて、色々な作品が作れました。
- ・きれいで他の人も「たのしかった。昼休みしたい」と言っていました。昼休みもやりたかったです。
- ・いろいろなそめかたがあるのだなと思い、びっくりしました。

ア. 10人  
イ. 2人  
ウ. エ. オ. 0人

ア. 6人  
イ. 4人  
ウ. エ. オ. 0人

【しつもん3】

- ・今日は楽しかったです。
- ・やまもみも楽しかったです。
- ・遠い中から来てくれてありがとうございます。
- ・おりぞめも楽しかったです。
- ・いろいろなそめかたができて良かったです。
- ・今日はありがとうございました。
- ・今日はありがとうございました。
- ・わからなかったところも教えてください。
- ・今日はありがとうございました。
- ・水につけて染めるのが楽しかったです。

# 「家庭科」学習指導案

大阪府立豊中支援学校

指導者 T1：教諭 里見 綾

T2：栄養教諭 林 潤姫

T3：教諭 二ノ方 香菜

1. 日時 令和元年10月16日(水) 第1・2時限(9:40~10:50)
2. 場所 調理室
3. 学部・学年・組 高等部 第2学年 作業コース 11名
4. 単元(題材)名 子どもの生活と保育(子どもの食事)
5. 単元(題材)目標
  - ・乳幼児の生活の特徴と乳幼児との関わり方について知る。
  - ・乳幼児とのよりよい関わり方について考え、工夫する。

## 6. 生徒観

本校は、知的障がい等のある生徒が在籍する支援学校である。本校の高等部2年の授業は、生徒の発達段階、習熟度や対人関係、個人のニーズ等を考慮して4つのコースに分かれている。本グループは「作業コース」の生徒11名で構成されており、卒業後の就労を見据えている生徒達のグループである。

家庭科の授業では、自分の意見を人に伝えるのが難しい生徒や自分で考えることを苦手とする生徒がいる一方で、積極的に自分の考えを発表できる生徒もいるなど差がある。自分で考えることを苦手とする生徒には、選択できるようにしたり、例を示してヒントとなるような言葉かけを行いながら授業を進めている。

本単元の保育分野については、食物分野で学習した栄養や調理実習と関係性を持たせながら、自分にとって身近な課題であることを捉えられるよう指導・支援していく。

## 7. 教材観

本校では例年、高等部2年時に保育園実習を実施している。実習では、幼児達との触れ合いの他にも、献立や調理をするうえでの工夫を知り、幼児食について具体的にイメージすることができるよう給食の様子も見学する。また夏休みの宿題では、家族のお弁当をつくるという課題に取り組み、生徒一人ひとりが栄養バランスを考えた献立作成について考える機会を設けた。卒業後は、グループホームに入り親から独立する生徒もいれば、自分の家庭を持ち親になる生徒もいる。自分の食生活をよりよいものにする意識及び、子どもを育てる親の能力が求められる。授業では、幼児のお弁当を考えることで、幼児期に必要な栄養や幼児食の特徴を理解するとともに、子どものために考えた安全で栄養バランスの良い献立作成の工夫を身につけられると考える。

## 8. 指導観

生徒が体験した保育園実習を思い出し、子ども達が喜んで食べるお弁当の献立を考える上で、生徒が楽しく積極的に学習に取り組めるように、給食の写真や食品カードを用いて学習する。また、自分で考える時間とグループで考える時間、意見を交換し発表する時間を設けた。自分で考えることで生徒が興味・関心を持ち、またグループで話し合うことで理解も深まり、より具体的、実際的な学習活動を展開し、「なるほど」「分かった」「もっと知りたい」といった気持ちを引き出したいと考えている。

授業は、栄養教諭も入ったTTで行う。主担当教員が授業を展開し、栄養教諭には栄養および献立作成の説明をしてもらう。他の教員は、ワークシートの記入が難しい生徒やグループトークに入りにくい生徒などの個別指導を行う。献立作成において調理衛生面や金銭面など実施困難な献立てがあがることも想定される。その場合は、2択以上の選択肢を提示するなどしてなるべく生徒自身が選択できるよう配慮する。

## 9. 単元（題材）の評価規準・キャリア教育の観点

### ① 評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
①幼児の食事について、大切な5項目が分かる。 ②安全や衛生に気を付けて調理ができる。	①幼児期に必要な栄養や幼児食の特徴を踏まえ献立を工夫して考え、発表することができる。 ②子どもの発達を支える親の役割や地域社会の果たす役割について考えることができる。	①子どもの発達と保育について関心を持って学習に取り組んでいる。

### ② キャリア教育の観点

1 コミュニケーション	2 協調する力	3 ルール理解・遵守力	4 健康管理力	5 役割遂行力	6 見通し、行動する力
③自分の意見を伝えることができる。				③係り、当番、代表等の仕事を遂行できる。	③自己選択・自己決定することができる。

10. 単元の指導と評価の計画（全12時間、本時は第7時）

次	時	学習内容	評価規準		
			A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態
第一 次	2	乳幼児の身体の特徴と発達			①
	4	保育園実習			①
第二 次	2 本時	幼児食の特徴 幼児食の献立（お弁当）作成	①	①	
	2	調理実習（お弁当）の計画	②		
第三 次	2	子どもの権利と福祉		②	

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

子どもが「喜ぶ」「栄養バランスのよい」お弁当を考えよう

(2) 本時の評価規準

【A①】 幼児の食事について、大切な5項目が分かる。

【B①】 幼児のお弁当献立を工夫して考え、まとめたり発表したりしている。

(3) 本時で扱う教材・教具

模造紙、ワークシート、給食の写真、食品カード、「はなちゃんのみそ汁」DVD・本、モニター、パソコン

(4) 児童生徒の実態と本時の目標

	児童生徒の実態	本時の目標	評価規準
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明をよく聞き、教員の質問にも的確に答えることができる。</li> <li>・友達の発表を聞いていないときがある。</li> <li>・日頃から料理をしており、栄養バランスの知識がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養バランスと衛生面を考えて献立作成ができる。</li> <li>・献立の工夫を皆の前で発表することができる。また、友達の発表も聞くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・傷みにくいおかずを選ぶことができる。【B①】</li> <li>・皆の前で献立の工夫を発表できる。また、発表している友達の方を見ながら発表を聞く。【B①】</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えをワークシートに記入することはできるが、皆の前で発表することは苦手である。</li> <li>・身近に幼児と接する機会があり、子どもと上手にコミュニケーションがとれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の食事についての大切な5項目に着目して説明を聞くことができる。</li> <li>・献立の工夫を皆の前で発表することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートやモニターに着目しながら、説明を聞いている。【A①】</li> <li>・恥ずかしがらずに皆の前で発表できる。【B①】</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集中力が切れると寝てしまうことがある。物事を自分中心に考え、嫌なことがあるとすぐに固まる。</li> <li>・授業に参加できないことが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の食事についての大切な5項目に着目して説明を聞くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートやモニターに着目しながら、説明を聞く。【A①】</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味関心が旺盛で学習意欲もある。突発的に教員に質問を投げかけるので、授業が中断することがある。</li> <li>・主菜と副菜の理解が難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養バランスに偏りがないよう考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品カードを確認しながら、主菜と副菜の区別をつけて献立作成ができる。【B①】</li> </ul>
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動がゆっくりで、理解や作業に時間がかかる。発言することが少なく、声も小さい。</li> <li>・食品カードを提示すると選択することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の食事についての大切な5項目に着目して説明を聞くことができる。</li> <li>・栄養バランスを考えて献立作成することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートやモニターに着目しながら、説明を聞く。【A①】</li> <li>・食品カードの中からカードを選んで献立を作成することができる。【B①】</li> </ul>

F	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話の内容を理解し行動に移すのが速い。周囲が私語をしていると、それにつられて私語をしてしまうことが多い。</li> <li>・絵を描くのが得意で、食材の絵をスラスラと早く描くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・献立の工夫を皆の前で発表することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆の前で堂々と自分の考えを発表することができる。【B①】</li> </ul>
G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集中して話を聞き、理解しようとする姿勢がみられる。しかし、理解できていても自ら積極的に挙手し、発言することは少なく、声も小さい。</li> <li>・幼児の妹がおり、保育の学習に意欲的である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児が喜ぶお弁当の献立作成ができる。</li> <li>・献立の工夫を皆の前で大きな声で発表することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児が喜ぶ彩りや形などに配慮して献立作成ができる。【B①】</li> <li>・大きな声で自分の考えを皆に発表することができる。【B①】</li> </ul>
H	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業速度や話の内容を理解するのに時間がかかる。グループ討議では自分の意見を出せないことが多い。</li> <li>・主菜と副菜の理解が難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メインの献立を考え、あとのメニューは提示した中から選ぶことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品カードの中からカードを選んで献立を作成することができる。【B①】</li> </ul>
I	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に授業に参加し、挙手をして発表しようとする意欲がある。思いついたことをすぐに発信してしまうので、落ち着いて話を聞けていないことが多い。</li> <li>・家で料理を手伝っており、調理実習が好きである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養バランスと衛生面を考えて献立作成ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・傷みにくいおかずを選ぶことができる。【B①】</li> </ul>
J	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆と一緒に教室で授業を受けるのを苦手とし、別室で学習している。少しでも不安があると先に進めない。</li> <li>・夏休みに課したお弁当の宿題は提</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の食事についての大切な5項目をワークシートに記入することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書を見ながらワークシートに記入することができる。【A④】</li> </ul>

	出すことができた。		
K	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曖昧な表現の理解が難しく、説明する際は具体的な指示が必要である。</li> <li>・夏休み課したお弁当の課題では、自分で実際に作った写真を掲載するなど意欲的である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養バランスに偏りがないよう工夫することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主食、主菜、副菜のバランスを保ち、献立を作成できる。【B①】</li> </ul>

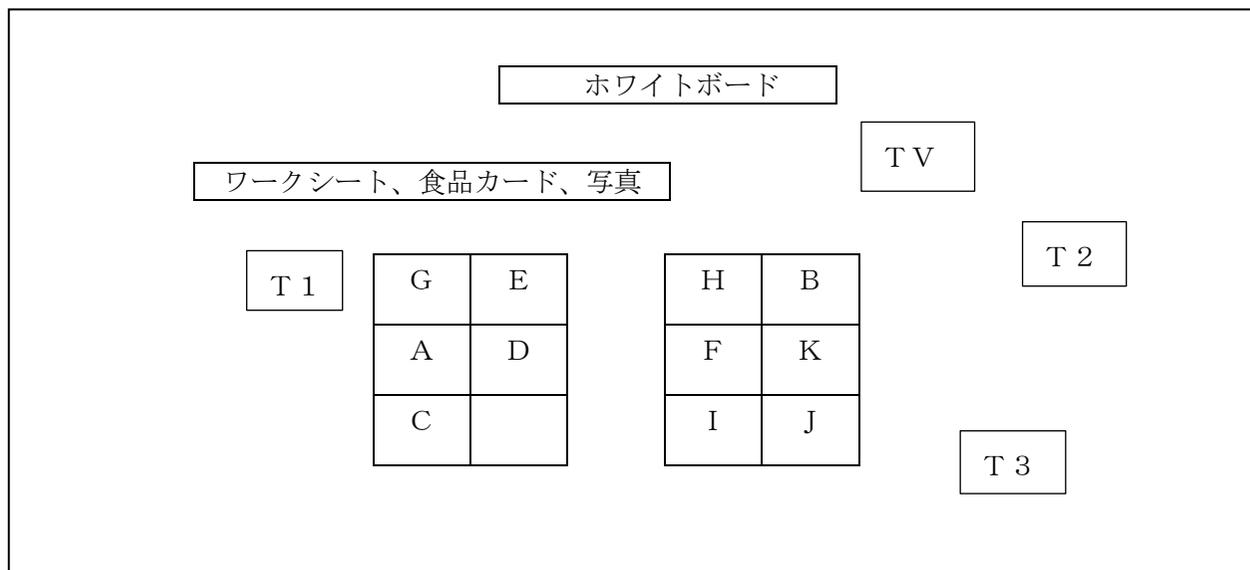
(5) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び 支援の手だて等	評価規準 (評価方法)	キャリア教育の観点 〔具体的に記入〕	キャリア教育 項目番号
5分 導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶をする。</li> <li>・教員の呼名に合わせて返事をする。</li> <li>・前時からの流れを振り返る。</li> <li>・本時の学習内容を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のはじまりが意識しやすいように、授業に必要なものが机の上に置かれていないか確認する。(T 1・T 3)</li> <li>・全員が姿勢を正してから挨拶するよう伝える。(T 1)</li> <li>・返事をしない生徒には再度名前を呼ぶ。(T 1)</li> <li>・モニターを見ながら前時の学習について確認する。(T 1)</li> <li>机間指導。(T 3)</li> <li>・ホワイトボードに本時の流れを示す。(T 1)</li> </ul>			

<p>60分 展 開 ①</p>	<p>○幼児期に必要な栄養や幼児期の特徴を学ぶ。 ・本およびDVD「はなちゃんのみそ汁」を視聴する。 ・PPを見ながら、幼児食の復習をする。</p>	<p>・PPの画面が全員に見えるように、モニターの位置を調節する。(T1) ・DVDで読めない漢字や内容補足などを口頭で説明する。(T1) ・幼児食の大切な5項目をワークシートに記入するよう伝える。(T1)</p>	<p>【A①】(観察) ワークシート①</p>		
<p>展 開 ②</p>	<p>・お弁当作りの条件・ポイントを確認する。 ・参考写真をもとに、幼児が喜ぶ見た目や、幼児が食べやすい工夫について知る。</p>	<p>・彩りが食欲に与える影響や幼児が食べやすい工夫に気付けるように写真や食材を使って説明する。(T2) ・お弁当作りの条件をモニターに映し出して確認する。(T2)</p>			
<p>展 開 ③</p>	<p>○お弁当献立を考える。  ・子どもが「喜ぶ」「栄養バランスのよい」お弁当を考え、ワークシートに記入する。 ★どのような場面を想定して作ったか、ネーミングや工夫したところ、アピールポイントも記入する。  (休憩5分) ○グループ討議と発表</p>	<p>・作業のイメージが膨らむように、食品カードを提示する。(T1・T2・T3) ・作業が終わった生徒には、工夫したところやアピールポイントを記入し、発表内容を考えるよう伝える。(T1・T2) ・机間指導をする中で、司会をする生徒を指名しておく(もしくは立候補)。(T1)  ・討議を円滑に進めることができないときは、司会に発表の順番を伝えたり、発表のタイミングを促す。 (T1・T2・T3)</p>	<p>【B①】(観察) ワークシート②</p>	<p>見通し)食品メニューを提示した中から選ぶことができる。  役割)司会係りと発表係りは、自分の役割を理解し、仕事を遂行する。 コミュ)自分の意見を伝える。</p>	<p>6—③          5—③   1—③</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たてた献立について発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モニターにワークシートを映し出す。(T 1)</li> <li>・工夫した点など褒めながら感想を聞きとる。(T 1・T 2・T 3)</li> </ul>			
5分 ま と め	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシートを記入する。</li> <li>・次回の学習内容を知る。</li> <li>・挨拶をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシートを記入するよう促す。時間があれば、今日の授業の感想を聞く。(T 1)</li> <li>・次回の学習内容を説明する。(T 1)</li> <li>・全員が姿勢を正してから挨拶するよう伝える。(T 1)</li> </ul>			

(6) 教室配置等 (正面を上にして、児童生徒や教員の位置、準備した教材・教具の位置、配置等を示す。)



## 高等部研究授業「家庭科」(家庭) 助言

●助言者：大阪府立生野支援学校指導栄養教諭 寺中純子先生

●授業者：本校教諭 里見綾・林潤姫

●聞き取り：研究研修部

◎助言者から感想や助言

### ○授業全体の印象

- ・保育園の実習をふまえ、子どもたちの喜ぶ弁当という子どもの関心を上手く引き出せるような教材であるという印象を受けた。
- ・里美先生や林先生が生徒たちの意見を否定せずに、前向きにコメントをされていたことが印象的だった。授業中の里見先生と林先生の連携もスムーズにできていた。
- ・積極的に発言する生徒と、発言が少ない生徒がいる中で、いろいろな生徒から意見を引き出すこともうまくできていた。
- ・豊中支援学校は、おいしい給食で有名である。今回の授業を参考に生野支援学校でも家庭科の先生方と連携し、食育を進めていきたい。

### ○授業の構成や教材について

- ・授業の中で「花ちゃんのみそ汁」というDVD(とても感動的なものである)を見せることについては、時間的に厳しいのではないかと感じた。
- ・生徒が視聴覚教材を見ることを、自然な感じで受け取っているのは、日ごろの実践の成果が出ている。
- ・林先生が食材の実物を見せることは、生徒がイメージしやすくなり、効果的だった。明日の給食を三色に分ける作業も具体的な実践であり、生徒も積極的に取り組んでいた。
- ・今後も授業で、栄養教諭と連携することを続けて欲しい。

### ○生野支援学校での取り組みについて

生徒が、とうもろこしの皮むきの取り組みを行った。生徒たちは、大変喜び作業を行った。当日、皮むきだけをするのではなく、ある先生は社会の授業で、とうもろこしの皮むきという食育活動に関連して、世界の中でどこがとうもろこしの産地かという調べ学習を行った。

食育は、理科や社会など教科学習にも広がりやつながりをつくることができる。ぜひ栄養教諭を授業で活用してほしい。子どもの食育を進めることによって、将来ちょっとしたことで、知識の有無が大きく生徒の人生に関わることもありえる。

例えばヨーグルトかゼリーかどちらにするかというセレクト給食を実施しているが、クラスで司会、書記、計算などの係を分担して行えばクラス活動にもなる。小さいことだが色々なことに広げることができる。

# 豊中 安全安心 HOT ホット PROJECT 実践報告

## - PTA との協働で創り出す災害時にも役立つ教育環境整備 -

安全安心 HOT ホット PT

### 1. はじめに

令和元年度研究紀要「とよなか」No.29 作成にあたり、今年度、本校の特色ある取組みのひとつとして実践をスタートした学校経営推進費補助事業（大阪府教育庁）を活用した学校防災の取組みを報告することとした。本事業の計画および評価報告は大阪府ホームページにも掲載されるものであるが、本紀要では実際に備蓄品等を使用体験した児童生徒の様子、PTA との協働による活動履歴を合わせて、支援学校の防災教育の導入例として発信するものとした。



### 2. 計画概要

#### (1) 事業背景

本事業にエントリーした大きな動機には、『学校備蓄品を充実させ、学校としての防災力を高める』という学校経営計画及び学校評価の今年度目標と、昨年度にデモ機をレンタルして好感触であった『ミライスピーカーを導入したい』というニーズが重なったところから始まる。同時に平成30年6月に発生した大阪府北部地震、翌7月の西日本豪雨での経験も思い返され、学校としての防災力を高める必要性を強く再認識した。本校に在籍する児童生徒にとって、学校が安全で安心できる場所であり、自らの命を守り抜くための「主体的に行動する態度」を体得するためには、日々の実体験を積み重ねながら非常時に備えることが児童生徒の実態に適していると考えた。学校生活のなかで必要な音や声がよりよく届き、非常時においても確実に活用できるミライスピーカーをはじめ、「日常使いのできる備蓄品」をコンセプトに計画を立案することに方針を定め、無事に支援校に指定していただくことができた。また、本校PTAにはTAS(豊中 ANSHIN サポーターズ)という保健防災委員会ボランティアグループが発足されており、PTA と協働して学校の防災力を高めるプロジェクトとして協力を得られることができた。支援校決定後にPTも立ち上げ、全校的に周知、汎用されるよう初年度を始動することができた。

#### (2) 事業目標

計画名	豊中 安全安心 HOT ホット PROJECT (PTA との協働で創り出す、災害時にも役立つ教育環境整備)
事業目標	災害発生時に備えて、防災、減災グッズを授業に活用し日常化することで、自らの命を守り抜く「自助」のための「主体的に行動する態度」を育成し、保護者との「共助」で非常時も安全で安心な学びの場を創造する。

(3) 3年間の取組み計画

初年度	◎各授業、行事への防災グッズの導入 防災グッズを活用した具体的な授業展開内容の検討 用具・機器導入に向けた教員研修 ◎ミライスピーカーの導入 全学部各授業、全校行事での使用開始 ◎PTA と協働した校内セーフティーゾーンの検討
2年目	◎各授業、行事への防災グッズの活用 授業等：ワイヤレススピーカー、プロジェクター機器の活用 行事等：サマーイベント、PTA バザーでの展示、デモ試行 ◎ミライスピーカーの活用 各学期始業式、終業式や式典行事での活用 地震・火災訓練やその他渉外行事での活用
3年目	◎防災グッズ、ミライスピーカーの汎用 授業等：アウトドア疑似体験、野外授業、マッスルスーツ実体験 行事等：保護者や関係機関への体験コーナーの設置 ◎渉外、広報活動への発展 「学校だより」「PTA だより」等での広報 「実践交流会」や学校ホームページでの情報発信ほか

(4) 主な購入物品

コンセプトである「日常使いできる」備蓄品であることに加え、減災の視点でも必要と考えられる物品を中心に申請した。合わせて、エアベッドや発電機の機動に必要な消耗品も申請した。

①ミライスピーカー 	②マッスルスーツ 	③発電機 
④ポータブル電源 	⑤テント各種 	⑥超短焦点プロジェクター 
⑦無線スピーカー 	⑧エアベッド 	⑨蛍光灯カバー 

写真：メーカーホームページより

### 3. 初年度実践

#### (1) 活用事例と児童生徒の様子

##### ① 全校行事（芸術鑑賞会）での導入

今年度の文化の集いにおいて、EPSON 社の社会貢献事業「ゆめ水族園」の実施が実現した。この企画もまた、今年度の本校の特色ある取組みのひとつであった。行事開催にあたり、計画段階から行事主催者と EPSON 社側が PT の依頼を受け入れて下さり、ミライスピーカーとワンポールテントを導入して展開することができた。ミライスピーカーは会場アナウンス用に使用し、ワンポールテントはメッシュテントの内部に小学部3年生の児童の作品を展示して会場内に設置し、鑑賞用として展示することにした。児童生徒は、期待感いっぱいの表情で会場内全体の雰囲気や、テント内で光る作品を鑑賞することができ、貴重な経験となった。「ゆめ水族園」での導入の他、学習発表会や式行事、学部行事のお楽しみ会など、物品活用が広がってきている。



写真：EPSON 社撮影

##### ② 授業場面での導入

授業場面においても、PT メンバーが先行して導入を進めている。代表的な実践として、小学部5年生「音楽」の授業での実践を紹介したい。先述した「ゆめ水族園」で撮り溜めておいた映像を超短焦点プロジェクターでホワイトボードと布に投影し、教室内でゆめ水族園の空間を再現した。エアベッド3台を並べて友だちと一緒に横になり、リラクゼーションメニューとして取組んだ。「ゆめのようなだった！」と感想を発表する児童もいた。非常時には気持ちを落ち着けて時間を過ごす手段のひとつとして活用できるよう、その他の備品を含めた活用実践を全学部で積み重ねていきたい。



写真：校長 Blog、PT メンバー撮影

## (2) PTA との協働

本校 PTA、保健防災委員会内には TAS (T: 豊中、A: 安心、S: サポーターズ) というボランティアグループが昨年度から活動を始めている。本事業の立案段階から TAS 及び PTA 役員の協力も依頼し、『大規模災害時初期対応マニュアル』に沿って校内の「安全ゾーン (一時避難場所や避難場所までの経路)」に取り付ける、ガラス飛散防止シートや蛍光灯キャップを備える箇所を確認し、次年度委員へ引き継ぎを行う準備を整えた。また、PTA 災害備蓄費予算においても協力をいただき、ミライスピーカーと音源デッキを接続するための配線やアダプターを購入し、ミライスピーカーの利便性を高めることができた。

## 4. 初年度評価 (成果報告書にも掲載)

- ① 学校教育自己診断による防災関連肯定的評価が保護者・教職員ともに 60% を超える。

### 教職員結果

診断内容		回答数	評点
わたしは、学校防災に対しての意識が高まっている。	小	39	71.8
	中	46	72.5
	高	47	70.2
	担外	18	79.6
	全	150	72.4

### 保護者結果

診断内容		回答数	評点
学校は、防災や防犯についての取り組みを適切に行っている。	小	71	92.1
	中	81	90.2
	高	79	88.2
	全	232	90.1
学校は、地震や台風、大雪などの災害時に適切な対応ができています。	小	69	90.3
	中	78	88.5
	高	84	80.2
	全	231	86

- ② 今年度より実施する学校生活アンケート対象生徒の防災への関心度を把握する。

### 生徒結果

診断内容		回答数	評点
先生は、地震や火災などが起こった場合、どうしたらよいか教えてください。	中	28	85.7
	高	51	83.7
	全	79	84.4

学校教育自己診断内の防災に関連した評価において、目標指数として設定していた肯定的評価 60% 以上は全ての設問において評点達成することができた。生徒、保護者評価は 80 点を超えた高い評点であり、防災への関心の高さも読み取れる。教職員の意識を高める仕組みを次年度以降の PT 活動テーマとして設定できると評価、考察することができた。

## 5. 2年目に向けて

初年度の物品購入手続きと並行して校内での活用を推進するなかで、不足が生じた物品や、新たに必要になってきた物品が発生したため、追加購入手続きを進めることとした。ミラリスピーカーを同時に複数台使用する場合に使用する拡声機器や、ハンズフリーで使用できるようになるワイヤレスヘッドマイクも追加購入することにした。次年度は更に利便性を高めたミラリスピーカーを中心に、購入物品を授業内外でより多くの機会に活用できるようPTメンバーを中心に『活用方法』を周知し、児童生徒、教職員それぞれが防災の意識を高めることができる1年にしていきたい。合わせて、地域に開かれたイベントでの活用や、児童生徒の実態に応じた外部機関との連携（防災に係る出前授業等）の機会を模索し、特色ある学校経営の一助となる活動を企画、発信したい。

## 6. 参考資料1（予算配当及び積算内訳）

事業費総額 2,647,598 円				
内訳（消耗需用費）		単価	数量	金額
1	LACITIA ポータブル電源 エナーボックス	57,240	2	114,480
2	SONY ワイヤレススピーカー SRS-XB21	10,800	12	129,600
3	山善 エアベッド PAH-001FP	4,980	6	29,880
4	CAPTAIN STAG ワンポールテント	21,600	4	86,400
5	CAPTAIN STAG ポップアップシェルター	3,240	4	12,960
6	ニトムズ 窓ガラス飛散防止シート（30本）	40,824	1	40,824
7	ルミキャップ 蛍光灯カバー（50本+単品）	41,212	1	41,212
8	DAYTONA ガソリン携行缶	5,724	1	5,724
9	ポータブルワイヤレス送信機	40,260	1	40,260
10	SENA SPH10 インカムヘッドセット	29,700	4	118,800
11	XIAOKOA ワイヤレスマイクヘッドセット	3,190	4	12,760
12	サンワサプライ bluetooth レシーバー	4,510	4	18,040
13	Sandony bluetooth ワイヤレスマイク	6,490	6	38,940
14	管理ロッカー	36,729	1	36,729
15	ヨガマット	5,060	5	25,300
内訳（備品購入費）		単価	数量	金額
1	Sound Fun! ミラリスピーカーMOBYセット	249,750	4	999,000
2	マッスルスーツ Edge	506,520	1	506,520
3	Honda 発電機 EU26i	180,360	1	180,360
4	SONY Xperia Touch G1109	104,760	2	209,520

## 7. 参考資料2（第2次選考プレゼンテーション資料）



1



2

# 豊中 安全安心 Hot ホッと PROJECT

豊中安心サポーターキャラクターお助けONE太



3

この数字は何をあらわしているでしょうか？

# 80%

5

様々な大規模災害にむけて、  
事前準備をしなければいけません



7

## ② 本事業の目的

豊中安心サポーターキャラクターお助けONE太



9

## ミライスピーカーとは



11

## まず、はじめに

今後30年以内に南海トラフ沿いの  
大規模地震が発生する確率

# 80%

※2019年4月に、気象庁地震火山部により公開されたもの

4

### 本日のコンテンツ

- ① はじめに
- ② 本事業の目的
- ③ 具体的な取組み計画・内容
- ④ 費用対効果
- ⑤ おわりに

6

自らの命を守る力を育成する。  
非常時も安全で安心な学びの場を創造する。

- ミライスピーカー
- 学校備蓄品の充実と活用
- PTA、地域とのつながり



8

10

“音場を広げる”に特化した  
ポータブルワイヤレスアンプ

MIRAI SPEAKER  
Moby



従来のスピーカー



ミライスピーカー



※メーカーホームページより

12

③ 具体的な取組み計画・内容



タス ｱﾝﾀ  
お助+ONE本

13

全校行事



日々の授業で…

14

PTAと…



15

マッスルスーツ 活用

豊中支援 .ver



16

④ 費用対効果



タス ｱﾝﾀ  
お助+ONE本

17

本事業により期待されること

- 自らの命を守る力の育成
- 安全で安心な学びの場づくり
- 教職員や保護者の適切な対応
- 知的障がい支援学校としての防災教育の展開
- 地域とのコミュニティづくり

18

⑤ おわりに



タス ｱﾝﾀ  
お助+ONE本

19

本事業で  
豊中支援学校がめざすもの

防災力を高める！

対応力・適応力を高める！



20

不安の80%を、安心の

80% に！

※評価の達成指数



21

ありがとうございました



タス  
TASUえる

22

## あとがき

今年度の重点目標「校内の研究・研修体制の整備推進」と「授業研究や実践交流、外部人材の活用を通じた専門性及び授業力の向上」を達成するために、この一年間取り組んできた教育実践を研究紀要にまとめました。各実践報告をご一読いただき、ご批評いただけたら幸甚です。

最後に、今年度の研究を進めるにあたり、ご指導・ご助言いただきました先生方には心より感謝いたしますとともに、厚くお礼申し上げます。今後とも、本校の研究活動に、ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

教 頭 岩井 宏氏

### ～ご指導・ご助言を賜りました先生方～

大阪府立生野支援学校	指導栄養教諭	寺中 純子	様
大阪府教育センター	指導主事	高河原 健	様
おりぞめ染伝人		山本 俊樹	様
関西福祉科学大学	准教授	加藤 美朗	様
立命館大学	教授	青山 芳文	様
大阪府立刀根山支援学校	首席	船木 雄太郎	様